川崎医科大学附属病院内科専門研修プログラム

2027 年度

研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）



内科専門研修プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 2
川崎医科大学附属病院内科専門研修施設・・・・・・・・・P.17　：資料 1
研修プログラム表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.109：資料 2
各年次到達目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.110：資料 3
内科専門研修プログラム管理委員会・・・・・・・・・・・P.111：資料 4
専攻医研修マニュアル・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.112：資料 5
指導医マニュアル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P.117：資料 6
二次医療圏で見た連携施設群（図解）・・・・・・・・・・P.119：資料 7

文中に記載されている資料「専門研修プログラム整備基準」「研修カリキュラム項目表」「研修手帳疾患群項目表」「技術・技能評価手帳」は、日本内科学会 web サイトにてご参照ください。

1．理念・使命・特性

①理念【整備基準 1】

1） 本プログラムは、岡山県の川崎医科大学附属病院を基幹施設として、岡山県二次医療圏（県南東部/県南西部/真庭/津山・英田）・他道府県医療圏にある広域連携施設とで内科専門研修を行います。岡山県内外の医療圏の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、内科専門医としての基本的臨床能力獲得後はさらに高度な総合内科の Generality を獲得する場合や内科領域 Subspecialty 専門医への道を歩む場合を想定して、2 つのコース別に研修を行って内科専門医を育成します。

2） 川崎学園の創始者川﨑祐宣初代学園長が、1）人間をつくる、2）体をつくる、3）医学をきわめる、の 3 つの理念を掲げ、川崎医科大学を開学しました。川崎医科大学附属病院である当院は、昭和 48（1973）年 12 月に開設され、現在 1,138 床の地域基幹病院として医療の発展と患者へのサービスに努めています。教育病院であるほか、平成 6（1994）年 4 月には厚生労働省より高度医療を提供する特定機能病院の承認も受けています。初代理事長であり、自ら初代病院長を務めた川崎祐宣先生の「24 時間いつでも診療を行う」の標榜と、「医療は患者のためにある」の信条が当院の基本理念となっています。全職員はこの方針を貫くべく一丸となって努力しておりますが、特にその時点その時点で最善の医療を提供できるように、近代医療における最新の検査および医療機器を設備し、これらを駆使して的確な診断と治療を行っています。さらに心のこもった看護とリハビリテーションを信条とする医療スタッフを配備してきています。この精神は病院開設当初より救急医療を重視してきた原点でもあります。特に初期・二次・三次救急医療を有機的にカバーする高度救命救急センターは、24 時間休むことなく親身になって活動しています。また、ドクターヘリを有し、岡山県内はもちろん、一部は広島県東部、瀬戸内の島々をカバーしています。 さらに、少子化時代の大切な小児救急疾患の治療には、昼夜を分かたず専念しています。と同時に、特定機能病院ならびに地域がん診療連携拠点病院、エイズ治療中核拠点病院として地域の病院、診療所とますます連携を深めつつ、高度で良質な医療を提供する責務を果たすよう努力しています。

当院の基本理念としては、下記の 5 つです。

①医療は患者のためにある。
②すべての患者に対する深い人間愛を持つ。
③24 時間いつでも診療を行う。
④先進的かつ高度な医療・教育・研究を行う。
⑤地域の医療福祉の向上と医療人の育成を行う。

3） 初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での 3 年間（基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。

内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 Subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力を指します。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修

得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力です。

②使命【整備基準 2】

1) 内科専門医として、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行います。研修を通して、医師としての人格と体をつくり、医学及び医療の果たすべき使命を認識します。

2) 本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行います。

3) 疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行います。

4) 将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行います。

③特性

1) 本プログラムは、岡山県倉敷市の川崎医科大学附属病院を基幹施設として、岡山県二次医療圏（県南東部/県南西部/真庭/津山・英田）と他道府県医療圏にある広域連携施設を内科専攻医研修病院として組み入れ、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように構成されています。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設 1 年間の 3 年間です。

2) 本研修プログラムでは、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とします。

3) 本研修プログラムの 3 年間で、「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた 41 疾患群と他に異なる 15 疾患群の経験を加えて合計 56 疾患群、120 症例以上の症例、そして全て異なる疾患群で 29 症例の病歴要約を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できます。

4) 連携病院が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、原則として 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に

求められる役割を実践します。

④専門研修後の成果【整備基準 3】

1） 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。

2） 内科系救急医療の専門医：内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。

3） 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合内科医療を実践します。

4） 総合内科的視点を持った Subspecialist：病院での内科系の Subspecialty を受け持つ中で、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 Subspecialist として診療を実践します。

本プログラムでは川崎医科大学附属病院を基幹病院として、多くの連携施設と病院群を形成しています。複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 内科専門医研修はどのように行われるのか[整備基準：13～16、30]

1） 研修段階の定義：内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（専攻医研修）3 年間の研修で育成されます。

2） 専門研修の 3 年間は、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム」にもとづいて内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

3） 臨床現場での学習：日本内科学会では内科領域を 56 疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録と指導医の評価と承認とによって目標達成までの段階を up-to-date に明示することとします。各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。

○専門研修 1 年

- 症例：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、20 疾患群以上を経験し、専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録することを目標とします。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。

- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフおよび患者・家族からなる 360 度評価を複数回行って、態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修 2 年

- 疾患：カリキュラムに定める 70 疾患群のうち、通算で 45 疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録することを目標とします。
- 技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフおよび患者・家族からなる 360 度評価を複数回行って、態度の評価を行います。専門研修 1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修 3 年

- 疾患：主担当医として、カリキュラムに定める全 70 疾患群、計 200 症例の経験を目標とします。但し、修了要件はカリキュラムに定める 56 疾患群、そして 120 症例以上（外来症例は 1 割まで含むことができる）とします。この経験症例内容を専攻医登録評価システム（J-OSLER）へ登録します。既に登録を終えた病歴要約は、病歴指導医・プログラム統括責任者の一次評価、査読委員による二次評価を受けます。
- 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。
- 態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフおよび患者・家族からなる 360 度評価を複数回行って、態度の評価を行います。専門研修 2 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、基本領域専門医としてふさわしい態度、Fitness to practice、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

＜内科研修プログラムの週間スケジュール代表例＞

青の部分は特に教育的な行事です。

血液内科

	月	火	水	木	金	土
午前	症例検討カンファレンス	モーニングケースカンファ	症例検討カンファレンス	症例検討カンファレンス	教授回診	症例検討カンファレンス
	大内科カンファレンス	大内科カンファレンス	大内科カンファレンス	大内科カンファレンス	大内科カンファレンス	大内科カンファレンス
	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修
昼休み						
午後		教授回診	レジデントセミナー		抄読会	
	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	病棟研修	
	移植カンファレンス		骨髄カンファレンス		骨髄カンファレンス	

脳卒中科

	月	火	水	木	金	土
午前	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	Weekendカンファレンス
	大内科カンファレンス	大内科カンファレンス	大内科カンファレンス	大内科カンファレンス	大内科カンファレンス	大内科カンファレンス
	病棟研修	教授回診症例検討会	脳血管造影	病棟研修	経食道心エコー検査	病棟研修
昼休み						
午後	症例検討会	抄読会	脳血管造影	症例検討会	症例検討会	
	病棟研修	病棟研修	レジデントセミナー	病棟研修	病棟研修	
	神経カンファレンス	病棟研修	症例検討会	総合内科カンファレンス、CPC	病棟研修	

専攻医登録評価システム（J-OSLER）の登録内容と適切な経験と知識の修得状況は指導医によって承認される必要があります。

【専門研修 1-3 年を通じて行う現場での経験】

① 専攻医 1 年目（あるいは 2 年）では初診を含むプライマリケア当番研修（1 回／月以上）を通算で 6 か月以上行います。

② 時間外診療業務（日夜勤）を経験します（月に約 2 回です）。

③ Subspecialty 重点コースの 3 年目では、該当科の初診・再診外来を週に 1 回担当します。通算で 6 か月以上の予定です。

4） 臨床現場を離れた学習

①内科領域の救急、②最新のエビデンスや病態・治療法について専攻医対象のレジデントセミナーが、水曜の午後に開催されており、それを聴講し、学習します。受講歴は登録され、充足状況が把握されます。内科系学術集会、JMECC（内科救急講習会）等においても学習します。JMECC については、当院には数名の内科指導医がインストラクターの資格を有し、原則年 2 回開催しています。

5） 自己研鑽

研修カリキュラムにある疾患について、内科系学会が行っているセミナーの DVD やオンデマンドの配信を用いて自己学習します。個人の経験に応じて適宜 DVD の視聴ができるよう図書館または医療資料部に設備を準備します。また、日本内科学会雑誌の MCQ やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。必要に応じて、指導医との discussion を行い、その際、自己学習結果を指導医が評価します。

6） 大学院進学

大学院における臨床研究は臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから、臨床研究の期間も専攻医の研修期間として認められます。具体的には、Subspecialty 重点コースの 3 年目から臨床医学系の大学院に進学することが可能で、専攻医研修と同様のプログラム内容が研修できるようになっています。

7） Subspecialty 研修

後述する“Subspecialty 重点コース”において、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。Subspecialty 研修は 3 年間の内科研修期間の、いずれかの年度で最長 2 年間について内科研修の中で重点的に行います。大学院進学を検討する場合につきましても、こちらのコースを参考に後述の項目 8 を参照してください。

3. 専門医の到達目標項目 2-3）を参照[整備基準：4、5、8～11]

1）3 年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格を完了することとします。

1） 修了要件に示した領域の合計数は 41 疾患群であるが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて合計 56 疾患群以上を経験すること。

2） 日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）へ症例(120 症例以上)を登録し、それを指導医が確認・評価すること。

3） 登録された症例のうち、29 症例を病歴要約として病歴指導医・プログラム統括責任者による一次評価、査読委員による二次評価の承認をもらうこと。

4） 技能・態度：内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、Fitness to practice、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得すること。

なお、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、研修手帳を参照してください。

2） 専門知識について

内科研修カリキュラムは消化器、循環器、糖尿病・内分泌・代謝、腎臓、呼吸器、血液、脳神経、脳卒中、リウマチ・膠原病の 9 領域から構成されています。川崎医科大学附属病院には 9 の内科系診療科（7 つの内科、他にリウマチ・膠原病科、脳卒中科）があり、9 領域すべての内科疾患が研修できます。また、救急疾患は高度救命救急センターを経由して該当する各診療科でも入院管理されており、当院においては内科領域全般の救急疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて、専門知識の習得を行ないます。さらに関連施設の川崎医科大学総合医療センター、倉敷中央病院、総合病院岡山赤十字病院、津山中央病院、国立病院機構南岡山医療センター、金田病院、心臓病センター榊原病院、水島中央病院、中国中央病院、福山市民病院、国立病院機構福山医療センター、香川県済生会病院、姫路聖マリア病院、赤穂市民病院、神戸労災病院、住友病院、大阪労災病院、国立循環器病研究センター病院、愛知県がんセンター、昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院、イムス葛飾ハートセンター、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、ＪＡ北海道厚生連札幌厚生病院、地域医療機能推進機構下関医療センター、国立病院機構姫路医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、広島市民病院、香川大学医学部附属病院、岡山大学病院、京都大学医学部附属病院、京都桂病院、東京品川病院、新東京病院、会津中央病院、水島協同病院、久留米大学病院、愛媛県立中央病院、岡山市立市民病院、国立病院機構柳井医療センター、みずしま協同クリニックを加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。患者背景の多様性に対応するため、地域（岡山県内）またはこれまでに当院との医療連携施設として実績のある県外病院での研修を通じて幅広い活動を推奨しています。

4. 各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得[整備基準：13]

1） 大内科カンファレンス・チーム回診（必要に応じて）：

朝、新入院患者の申し送りを行い、それぞれのチームで回診を行って指導医からフィードバックを受け、指摘された課題について学習を進めます。

2） 教授（部長）回診：

受持患者について教授をはじめとした指導医陣に報告してフィードバックを受けます。受持以外の症例についても見識を深めます。

3） 症例検討会：

診断・治療困難例、臨床研究症例などについて専攻医が報告し、指導医からのフィードバック、質疑などを行います。

4） スキルス・ラボ研修：

臨床教育研修センター内に、基本的手技の演習及びチーム医療の一員としての技法を体得して、高度専門医をはじめ、実力ある医療スタッフを目指すことを目的としてスキルス・ラボが整備されています。センター内には、SimMan シミュレーター本体基本装置セット、ハートシム ACLS トレーニングシステム、レサシアン・モジュールシステムトルソ、AED レサシアントレーニングシステムスキルレポーターモデル、AED トレーサー、チョーキングチャーリー、気道管理トレーナー、エンドワークプロ II、超音波検査トレーニング（ウルトラシム）、超音波画像診断装置 M-Turbo、採血・静脈シミュレーター“シンジョーII”などの非常に精巧なシミュレ

ーターが数多く設置され研修することができます。

5） CPC：
死亡・剖検例、難病･稀少症例についての病理診断を検討します。

6） レジデントセミナー：
研修医だけでなく、全科の医師を対象とした共通教育プログラムです。プライマリケアに必要な知識の習得を目的として、特定の課題についても学びます。

7） 抄読会・研究報告会：
受持症例等に関する論文概要を口頭説明し､意見交換を行います。研究報告会では講座で行われている研究について討論を行い、学識を深め、国際性や医師の社会的責任について学びます。

8） Weekly summary discussion：
週に１回、指導医と行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

9） 学生・初期研修医に対する指導：
病棟や外来で医学生･初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

5．学問的姿勢[整備基準：6、30]

患者から学ぶという姿勢を基本とし、科学的な根拠に基づいた診断、治療を行います（evidence based medicine の精神）。最新の知識、技能を常にアップデートし、生涯を通して学び続ける習慣を作ります。また、日頃の診療で得た疑問や発想を科学的に追求するため、症例報告あるいは研究発表を奨励します。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢も高く評価されます。

6．医師に必要な、倫理性、社会性[整備基準：7]

医師の日々の活動や役割に関わってくる基本となる能力、資質、態度を患者への診療を通して医療現場から学びます。

川崎医科大学附属病院（基幹病院）において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、連携施設において、地域住民に密着し、病病連携や病診連携を依頼する立場を経験することにより、地域医療を実施します。そのため複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を積みます。詳細は項目８を参照してください。

連携施設へのローテーションを行うことで、地域においては、人的資源の集中を避け、院外研修先の医療レベル維持に貢献します。基幹施設、連携施設を問わず、患者への診療を通して、医療現場から学ぶ姿勢の重要性を知ることができます。インフォームド・コンセントを取得する際には上級医に同伴し、接遇態度、患者への説明、予備知識の重要性などについて学習します。医療チームの重要な一員としての責務（患者の診療、カルテ記載、病状説明など）を果たし、リーダーシップをとれる能力を獲得できるようにします。

医療安全と院内感染症対策を充分に理解するため、医療安全講習会、感染対策講習会に出席します。医療倫理については、川崎医科大学・同附属病院倫理委員会主催の「医学系研究者の倫理的配慮・書類記載報に関する教育研修会」を開催しており、「医学研究倫理の基本的知識」、

「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」、「利益相反マネージメントの現状と注意点」の講習を受けます。出席状況は常時管理されています。

7. 研修施設群による研修プログラムおよび地域医療についての考え方[整備基準：25、26、28、29]

川崎医科大学附属病院（基幹施設）において症例経験や技術習得に関して、単独で履修可能であっても、地域医療を実施するため、複数施設での研修を行うことが望ましく、全てのコースにおいてその経験を求めます。（詳細は項目 10 と 11 を参照のこと）

地域医療を経験するため、全てのプログラムにおいて連携施設での研修期間を設けています。連携病院へのローテーションを行うことで、人的資源の集中を避け、院外研修先の医療レベル維持にも貢献できます。連携施設では基幹施設で研修不十分となる領域を主として研修します。入院症例だけでなく外来での経験を積み、施設内で開催されるセミナーへ参加します。連携施設は、①岡山県内が川崎医科大学総合医療センター、倉敷中央病院、総合病院岡山赤十字病院、津山中央病院、国立病院機構南岡山医療センター、金田病院、心臓病センター榊原病院、水島中央病院、岡山大学病院、水島協同病院、②岡山県外が、中国中央病院、福山市民病院、国立病院機構福山医療センター、香川県済生会病院、姫路聖マリア病院、赤穂市民病院、神戸労災病院、住友病院、大阪労災病院、国立循環器病研究センター病院、愛知県がんセンター、昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院、イムス葛飾ハートセンター、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、ＪＡ北海道厚生連札幌厚生病院、地域医療機能推進機構下関医療センター、国立病院機構姫路医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、広島市民病院、香川大学医学部附属病院、京都大学医学部附属病院、京都桂病院、東京品川病院、新東京病院、会津中央病院、久留米大学病院、愛媛県立中央病院、岡山市立市民病院、国立病院機構柳井医療センター、みずしま協同クリニックの合計 42 施設です。特に岡山県外の病院と連携する理由は、これまでに当院の初期・後期研修の連携病院、当院後期研修終了後の赴任病院、当院内科指導医の診療支援病院として長年の実績があり、内科指導医が常に在籍している病院であるからです。

地域における指導の質および評価の正確さを担保するため、常にメールなどを通じて良医育成支援センターと連絡ができる環境を整備し、問題点を指導医と相談し、プログラムの進捗状況を報告します。また、連携施設で研修中は、7 月と 11 月の第 4 土曜日に基幹病院である当院に専攻医全員が集まり、研修報告会を開催して、討論内容を専攻医および連携施設の指導医にフィードバックします。

8. 年次毎の研修計画[整備基準：16、25、31]

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2 つのコース、①Subspecialty 重点コース、②内科基本コースを準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。

① Subspecialty 重点コース

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。1 年目から所属科に入局のうえ、当該診療科において担当する患者さんが決定されます。また、内科系合同研修（大内科と呼んでいます）を並行して行うことも可能で、担当医を決定するにあたっては、電子カルテ上に各専攻医がこれまでに経験した症例内容が一覧できるシステムを構築しているので、指導医と専

攻医が双方向性に議論することによって公平性が保たれるように配慮しています。ただし、専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得へのMotivationを強化することを目的とし、希望するSubspecialty領域の症例を中心に担当します。2年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。連携施設として川崎医科大学総合医療センター、倉敷中央病院、総合病院岡山赤十字病院、津山中央病院、国立病院機構南岡山医療センター、金田病院、心臓病センター榊原病院、水島中央病院、中国中央病院、福山市民病院、国立病院機構福山医療センター、香川県済生会病院、姫路聖マリア病院、赤穂市民病院、神戸労災病院、住友病院、大阪労災病院、国立循環器病研究センター病院、愛知県がんセンター、昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院、イムス葛飾ハートセンター、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、ＪＡ北海道厚生連札幌厚生病院、地域医療機能推進機構下関医療センター、国立病院機構姫路医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、広島市民病院、香川大学医学部附属病院、岡山大学病院、京都大学医学部附属病院、京都桂病院、東京品川病院、新東京病院、会津中央病院、水島協同病院、久留米大学病院、愛媛県立中央病院、岡山市立市民病院、国立病院機構柳井医療センター、みずしま協同クリニックで病院群を形成し、いずれかを原則として1年間ローテーションします（複数施設での研修の場合はそれぞれを少なくとも6か月間の研修を行い、期間の合計が1年間です）。3年目には、Subspecialty領域を基幹病院で重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望するSubspecialty領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から連携施設での重点研修を行うことがありますが、あくまでも内科専門医研修が主体であり、重点研修は最長2年間とします。また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して大学院入学時期を決めて頂きます。

② 内科基本コース

内科（Generality）専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度なGeneralistを目指す方も含まれます。将来のSubspecialtyが未定な場合に選択することもあり得ます。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の3年間において1年目と2年目は、内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として2か月を1単位として、1年間に9診療科（①血液内科、②循環器内科、③腎臓内科、④神経内科、⑤消化器内科、⑥呼吸器内科、⑦糖尿病・代謝・内分泌内科、⑧リウマチ・膠原病科、⑨脳卒中科）を基幹施設でローテーションします。3年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。連携施設として川崎医科大学総合医療センター、倉敷中央病院、総合病院岡山赤十字病院、津山中央病院、国立病院機構南岡山医療センター、金田病院、心臓病センター榊原病院、水島中央病院、中国中央病院、福山市民病院、国立病院機構福山医療センター、香川県済生会病院、姫路聖マリア病院、赤穂市民病院、神戸労災病院、住友病院、大阪労災病院、国立循環器病研究センター病院、愛知県がんセンター、昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院、イムス葛飾ハートセンター、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、ＪＡ北海道厚生連札幌厚生病院、地域医療機能推進機構下関医

療センター、国立病院機構姫路医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、広島市民病院、香川大学医学部附属病院、岡山大学病院、京都大学医学部附属病院、京都桂病院、東京品川病院、新東京病院、会津中央病院、水島協同病院、久留米大学病院、愛媛県立中央病院、岡山市立市民病院、国立病院機構柳井医療センター、みずしま協同クリニックで病院群を形成し、いずれかを原則として 1 年間ローテーションします（複数施設での研修の場合はそれぞれを少なくとも 6 か月間の研修を行い、期間の合計は 1 年間です）。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。連携施設での研修は 3 年目としていますが、研修委員会との相談により、1 年目あるいは 2 年目への変更、また当院での研修の順序も変更可能とします。

9. 専門医研修の評価[整備基準：17～22]

① 形成的評価（指導医の役割）

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が登録した専攻医登録評価システム（J-OSLER）への症例登録や病歴要約の作成状況についても指導します。カルテ記載のテキストブックとして、「電子カルテ時代の POMR ガイドブック」を用意しています。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。

良医育成支援センターは指導医のサポートと評価プロセスの進捗状況についても追跡し、必要に応じて指導医へ連絡を取り、評価の遅延がないようにリマインドを適宜行います。

② 総括的評価

専攻医研修 3 年目の 3 月に専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 症例の病歴要約の承認、所定の講習受講や研究発表なども判定要因になります。

最終的にはプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。

修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

③ 研修態度の評価

指導医や上級医のみでなく、メディカルスタッフ（看護師、臨床検査・放射線技師、臨床工学技士、栄養士、臨床心理士、MSW、病院事務員など）の多職種評価を専攻医登録評価システム（J-OSLER）で行います。

④ ベスト専攻医賞の選考

プログラム管理委員会と総括責任者は上記の評価を基にベスト専攻医賞を専攻医研修終了時に１名選出し、表彰状を授与します。

⑤ 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、

Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

10. 専門研修プログラム管理委員会[整備基準：35～39]

1）研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を川崎医科大学附属病院に設置し、その委員長・副委員長を含め各診療科から１名ずつ管理委員を選任しています。プログラム管理委員会の下部組織として、専攻医の研修を管理する研修実務委員会を置き、委員長が統括します。

11. 専攻医の就業環境（労務管理）[整備基準：40]

専攻医の勤務時間、休暇、時間外診療業務、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。

労働基準法を順守し、川崎医科大学附属病院の「レジデント修練服務規程、レジデント制度取扱規程」に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と病院衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

女性専攻医が安心して勤務できるように設備を整備し、さらに産前産後休暇・育児休業、 妊娠期間中や、子供の小学校入学までの時間外診療業務の免除申請が可能などの女性医師支援に取り組んでいます。

※本プログラムでは基幹施設、連携施設の所属の如何に関わらず、基幹施設である川崎医科大学附属病院の統一的な就業規則と給与規則で統一化していますが、このケースが標準系ということではありません。個々の連携施設において事情は様々ですが、専攻医に配慮のある明確な諸規則を用意いたします。

12. 専門研修プログラムの改善方法 ［整備基準：49～51］

必要に応じて研修プログラム管理委員会を川崎医科大学附属病院にて開催し、プログラムが遅滞なく遂行されているかを評価し、問題点を明らかにします。また、各指導医と専攻医の双方からの意見を聴取して適宜プログラムに反映させます。また、研修プロセスの進行具合や各方面からの意見を基に、プログラム管理委員会は毎年、次年度のプログラム全体を見直すこととします。

13. 修了認定 ［整備基準：21、53］

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が評価した後、プログラム管理委員会を開催して修了判定会議を行います。その後プログラム統括責任者が J-OSLER 上にて修了認定を行います。

1） 修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 120 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録しなければなりません。

2） 29 症例の病歴要約

3） 内科系学術集会への参加
4） 2 編の筆頭演者または筆頭著者として学会発表または論文発表
5） JMECC 受講
6） プログラムで定める講習会受講
7） 指導医とメディカルスタッフによる評価の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと。

14．専攻医が専門研修プログラムの修了に向けて行うべきこと ［整備基準：21、22］

3 月末までに修了認定されたら、その後、専攻医は専門医認定試験の受験申請を行ってください。

15．研修プログラムの施設群 ［整備基準：23～27］

川崎医科大学附属病院が基幹施設となり、連携施設として川崎医科大学総合医療センター、倉敷中央病院、総合病院岡山赤十字病院、津山中央病院、国立病院機構南岡山医療センター、金田病院、心臓病センター榊原病院、水島中央病院、中国中央病院、福山市民病院、国立病院機構福山医療センター、香川県済生会病院、姫路聖マリア病院、赤穂市民病院、神戸労災病院、住友病院、大阪労災病院、国立循環器病研究センター病院、愛知県がんセンター、昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院、イムス葛飾ハートセンター、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、ＪＡ北海道厚生連札幌厚生病院、地域医療機能推進機構下関医療センター、国立病院機構姫路医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、広島市民病院、香川大学医学部附属病院、岡山大学病院、京都大学医学部附属病院、京都桂病院、東京品川病院、新東京病院、会津中央病院、水島協同病院、久留米大学病院、愛媛県立中央病院、岡山市立市民病院、国立病院機構柳井医療センター、みずしま協同クリニックを加えた専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。

16．専攻医の受入数

1） 本プログラムの定員は調整中です。
2） 基幹病院である川崎医科大学附属病院には日本内科学会指導医 59 名、総合内科専門医 30 名が常勤として在籍しています。
3） 内科 9 領域（subspecialty）のうち全ての領域において専門医が 1 名以上在籍しています。

17．Subspecialty 領域

内科専攻医になる時点で将来目指す Subspecialty 領域が決定していれば、Subspecialty 重点コースを選択することになります。内科基本コースを選択していても、条件を満たせば Subspecialty 重点コースに移行することも可能です。原則として内科専門医研修修了後、各領域の専門医（例えば循環器専門医）を目指します。

18．研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件 ［整備基準：33］

1） 出産、育児によって連続して研修を休止できる期間を 6 か月とし、研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6 か月以上の休止の場合は、未修了とみなし、不足分を予定修了日以降

に補うこととします。また、疾病による場合も同じ扱いとします。

2) 研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は日本専門医機構の承認を受ける必要があります。

19. 専門研修指導医 ［整備基準：36］

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し、評価を行います。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること。
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を発表する（「first author」もしくは「corresponding author」であること）。もしくは学位を有していること。
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること。
4. 内科医師として十分な診療経験を有すること。

【(選択とされる要件（下記の 1、2 いずれかを満たすこと】

1. CPC、CC、学術集会（医師会含む）などへ主導的な立場として関与・参加すること。
2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読、JMECC のインストラクターなど）。

※ 但し、当初は指導医の数も多く見込めないことから、すでに「総合内科専門医」を取得している方々は、そもそも「内科専門医」より高度な資格を取得しているため、申請時に指導実績や診療実績が十分であれば、内科指導医と認めます。また、現行の日本内科学会の定める指導医については、内科系 Subspecialty 専門医資格を 1 回以上の更新歴がある者は、これまでの指導実績から、移行期間（2025 年まで）においてのみ指導医と認めます。

20. 専門研修手帳システム、マニュアル等 ［整備基準：41～48］

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルに基づいて行われます。専攻医は別添の専攻医研修手帳システムに研修実績を記載し、指導医と経験症例の進捗状況を情報共有し、スムーズな研修が行えるようにします。

21. 研修に対するサイトビジット（訪問調査） ［整備基準：51］

研修プログラムに対して日本専門医機構からのサイトビジットがあります。サイトビジットにおいては研修指導体制や研修内容について調査が行われます。その評価はプログラム管理委員会に伝えられ、必要な場合は研修プログラムの改良を行います。

22. 専攻医の採用と修了 ［整備基準：52、53］

1) 採用方法

川崎医科大学附属病院は、毎年 7 月から専攻医の応募を受付けます。プログラムへの応募者は、所定の日までに人事課で応募手続きを行ってください。応募書類は(1) 学校法人 川崎学園の採用情報 website よりダウンロード、(2)電話で問い合わせ(086-464-1104)、(3)e-mail で問い合わせ

（jinji@med.kawasaki-m.ac.jp）のいずれの方法でも入手可能です。所定の日までに書類選考および面接を行い、採否を決定して本人に通知します。

2） 研修の修了

J-OSLER において修了要件を満たした後、プログラム統括責任者が召集するプログラム管理委員会にて研修修了の可否を判定します。

プログラム管理委員会において修了が認められたら、J-OSLER 上においてプログラム統括責任者が修了認定とします。

資料１

川崎医科大学附属病院内科専門研修施設群研修施設

表１．各研修施設の概要（令和８年３月現在、剖検数）

	病院	病床数	内科系 病床数	内科 診療科数	内科 指導医数	総合内科 専門医数	内科 剖検数
基幹施設	川崎医科大学附属病院	1,138	337	9	59.	30	14
連携施設	川崎医科大学総合医療センター	647	125	3	22	33	11
連携施設	倉敷中央病院	1,172	445	10	76	52	8
連携施設	住友病院	499	270	8	26	17	20
連携施設	大阪労災病院	678	205	6	16	26	6
連携施設	津山中央病院	456	149	8	13	8	3
連携施設	国立循環器病研究センター	527	279	11	76	50	21
連携施設	水島中央病院	198	40	4	4	4	0
連携施設	岡山赤十字病院	500	200	11	11	21	11
連携施設	金田病院	160	100	6	5	5	0
連携施設	福山医療センター	350	142	5	10	8	1
連携施設	姫路聖マリア病院	425	110	1	11	10	3
連携施設	南岡山医療センター	375	230	4	3	7	5
連携施設	札幌厚生病院	516	255	12	21	25	3
連携施設	心臓病センター榊原病院	297	163	6	8	8	1
連携施設	福山市民病院	506	184	4	23	23	13
連携施設	昭和医科大学病院	815	359	10	81	52	29
連携施設	昭和医科大学江東豊洲病院	400	混合病棟	4	31	26	13
連携施設	昭和医科大学横浜市北部病院	689	※	4	42	28	11
連携施設	昭和医科大学藤が丘病院	584	252	5	69	82	6
連携施設	赤穂市民病院	360	100	2	6	4	5
連携施設	愛知県がんセンター	500	230	9	16	28	0
連携施設	神戸労災病院	314	156	7	9	11	3
連携施設	香川県済生会病院	187	60	12	5	2	2

連携施設	イムス葛飾ハートセンター	50	25	1	1	3	0
連携施設	中国中央病院	243	152	7	14	10	4
連携施設	地域医療機能推進機構 下関医療センター	315	98	8	1	7	3
連携施設	岡山大学病院	819	213	9	71	75	5
連携施設	広島市民病院	743	-	10	44	33	9
連携施設	神戸市立医療センター 中央市民病院	768	241	10	39	44	21
連携施設	香川大学医学部附属病院	613	177	11	51	38	2
連携施設	姫路医療センター	405	209	7	13	19	3
連携施設	京都大学医学部附属病院	1131	270	10	103	150	9
連携施設	京都桂病院	551	292	10	30	30	7
連携施設	東京品川病院	440	145	10	25	15	7
連携施設	新東京病院	391	147	4	9	11	4
連携施設	会津中央病院	713	180	4	2	0	0
連携施設	水島協同病院	282	184	6	8	6	5
連携施設	久留米大学病院	1018	252	6	109	66	11
連携施設	愛媛県立中央病院	827	250	9	35	34	13
連携施設	岡山市立市民病院	400	200	12	27	25	10
連携施設	柳井医療センター	280	180	5	0	4	0
特別連携施設	みずしま協同クリニック	0	0	8	1	1	0
研修施設合計		22,282	7,606	308	1,226	1,131	302

※内科系病床数・・・内科系病床数は「センター化」のためカウント不可

表 2．各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

病院	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝糖	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
川崎医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
川崎医科大学総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
倉敷中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
住友病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大阪労災病院	○	○	○	○	○	○	△	×	○	△	△	○	○

津山中央病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
国立循環器病研究センター	△	×	○	○	○	○	×	×	○	×	×	△	○
水島中央病院	○	○	○	△	○	△	○	×	○	△	×	○	○
岡山赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
金田病院	○	○	○	△	○	△	○	○	△	△	△	○	○
福山医療センター	○	○	○	△	×	×	○	×	×	×	×	○	×
姫路聖マリア病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
南岡山医療センター	○	○	○	×	○	×	○	×	○	△	×	△	×
札幌厚生病院	△	○	○	△	△	△	○	○	○	△	○	○	○
心臓病センター榊原病院	○	○	○	△	○	○	○	×	×	△	△	○	○
福山市民病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○
昭和医科大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
昭和医科大学江東豊洲病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	△	△
昭和医科大学横浜市北部病院	×	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	△	△
昭和医科大学藤が丘病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
赤穂市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
愛知県がんセンター	△	○	△	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
神戸労災病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
香川県済生会病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
イムス葛飾ハートセンター	×	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
中国中央病院	○	○	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	△
地域医療機能推進機構 下関医療センター	△	○	○	○	○	△	△	○	○	△	△	△	△
岡山大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
広島市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神戸市立医療センター中央 市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
香川大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
姫路医療センター	○	○	○	○	○	×	○	○	×	○	○	○	○
京都大学医学部附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
京都桂病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○
東京品川病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新東京病院	○	○	○	×	×	×	○	×	×	×	×	×	△
会津中央病院	×	○	△	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○
水島協同病院	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○
久留米大学病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
愛媛県立中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
岡山市立市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
柳井医療センター	△	△	×	×	×	△	×	×	○	×	×	△	×
みずしま協同クリニック	○	○	○	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を３段階（○・△・×）に評価しました。

〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

１）専門研修基幹施設

川崎医科大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書館、自習室、インターネット環境に加え、良医育成支援センターおよびシミュレーションセンター（腹腔鏡、内視鏡、蘇生など）があります。 ･川崎医科大学附属病院シニアレジデントとして労務環境が保障されています。 ･セクシュアル・ハラスメント防止対策委員会が大学に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室を整備し、さらに産前産後休暇・育児休業、妊娠期間中の当直免除の申請可能、小学校入学までの当直免除申請可能などの女性医師支援に取り組んでいます。 ･敷地内に子育て支援センターがあり、保育所および病児保育が利用可能です。 ･福利厚生面の充実に力を入れ、独身者には病院から 1km のところにアパート（二子レジデンス）があり、希望者はおおむね利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 59 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム研修実務委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・院内感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 5 回，院内感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･レジデントセミナーCPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスとして、cancer seminar，case conference、oncology seminar、岡山県緩和ケア研修会を定期的に開催し、専攻医に受講を奨励し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 9 分野のうち、消化器、循環器、糖尿病・代謝・内分泌、腎臓、呼吸器、血液、脳神経、脳卒中、リウマチ・膠原病のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同中国地方会に年間で計 10 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	三原　雅史 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎医科大学は中核市である倉敷市内に附属病院、政令指定都市である岡山市内に総合医療センターの 2 つの附属病院を有し、岡山県内外の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学附属病院の内科系 9 診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。院内には約 80 の

	カンファレンス室が用意されていて、常時有効に利用することが可能です。同時に、大学の研究室、研究センターなども有機的に利用でき、希望に応じて医学教育への参画や臨床研究の実践に取り組むこともできます。
指導医数 （内科系所属の常勤医に限定）	日本内科学会指導医 59 名、日本内科学会総合内科専門医 30 名、 日本消化器病学会消化器専門医 19 名、日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 15 名、日本脳卒中学会専門医 12 名 日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、 日本腎臓病学会専門医 11 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 11 名、日本神経学会神経内科専門医 9 名、 日本リウマチ学会専門医 5 名、日本感染症学会専門医 6 名　ほか
外来・入院患者数	年間総外来患者数 16,094（全科）、2,418（内科） 年間総入院患者数 205,106（全科）、68,943（内科）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例をすべて経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 ステントグラフト実施施設（腹部大動脈瘤）（胸部大動脈瘤） 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設

	日本リウマチ学会教育施設 日本動脈硬化学会専門医教育施設

2）専門研修連携施設

1．川崎医科大学総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修病院基幹型研修指定病院で、NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･川崎医科大学総合医療センター常勤職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ･ハラスメント委員会（暴言、暴力の窓口）が院内に設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。女性専攻医専用の更衣室、休憩室も完備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医 22 名(総合内科専門医 33 名)が在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会（9 名）を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回、倫理講習 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。医療倫理については、上記以外にも川崎医科大学・同附属病院倫理委員会主催の「人を対象とする医学系研究に関する教育研修会」を年 1 回開催しており、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および「統合倫理指針・臨床研究法に基づいた臨床研究の実施」についての講習を受けています。 ･CPC を定期的に開催（2023 年度は実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･JMECC については当院には 2 名のインストラクターが在籍し、2023 年度は 1 回開催しました。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野において、定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･内科系剖検体数は、2021 年度 10 体、2022 年 11 体で、2023 年 11 体で専門研修に必要な剖検数を得られる予定です。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会中国地方会に 2021 年度 10 演題、2022 年度 9 題、2023 年度 7 題、3 年間計 26 演題を発表しています。
指導責任者	河本　博文 【内科専攻医へのメッセージ】 川崎医科大学は、岡山県の中核市である倉敷市内に附属病院、そして政令指定都市である岡山市内に当院を有しています。当院は、一般医療および救急医療から、大学附属病院としての高度専門医療および緩和医療まで広く地域に貢献している急性期病院です。多くの大学附属病院では内科学が専門別あるいは臓器別に診療されることが多いですが、当院では 4 つの総合内科学教室と脳卒中学教室が実践的な内科診療を行っています。すなわち、一般診療を高いレベルで行う総合内科医として全人的医療をするとともに、各分野の専門医として治療を行っています。そのため、総合内科専門医の取得とともに subspecialty の道へもスムーズに移行できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 22 名、日本内科学会総合内科専門医 33 名、日本消化器病学会消化器専門医 14 名、日本消化器内視鏡学会専門医 11 名、日本が

	ん治療認定医機構がん治療認定医 8 名、日本肝臓学会専門医 6 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 5 名、日本神経学会専門医 5 名、日本結核病学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本血液学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、日本脳卒中学会専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本感染症学会専門医 1 名、日本臨床神経生理学会 2 名、日本緩和医療学会専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	2022 年度の内科系外来患者数は 60,613 名（うち救急外来患者は 4,251 名）、内科系入院患者は 3,607 名でした。
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、稀な疾患を除けば幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	地域の開業医等を対象としたセミナーや研修会を開催するなど、病診連携体制を強化すると同時に、急性期医療を脱した患者の逆紹介を推進し、地域社会との共存共栄を図りながら連携を推進することができます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育施設、日本呼吸器学会認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会教育関連施設、日本血液学会研修施設、日本緩和医療学会認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本神経学会准教育施設、日本東洋医学会研修施設、日本感染症学会研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本消化器病学会認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本循環器学会専門医研修施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本脳卒中学会研修教育病院

２．倉敷中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･倉敷中央病院専攻医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事部）があります. ･ハラスメント委員会が当院内に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 77 名在籍しています（専攻医マニュアルに明記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、基幹施設、連携施設に設置される研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（年間開催回数：医療倫理 2 回、医療安全 7 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（年間実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。 ・指導医が在籍していない特別連携施設での専門研修では、基幹施設でのカンファレンスなどにより研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の,総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 5 演題）をしています. 又,内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2023 年度実績 240 演題)
指導責任者	石田　直 【内科専攻医へのメッセージ】 倉敷中央病院は,岡山県県南西部の医療の中枢として機能しており,地域の救急医療を支えながら,又高機能な医療も同時に任っている急性期基幹病院です. 内科の分野でも入院患者の 25%は救命救急センターからの入院であり,又内科領域 13 分野には多くの専門医が high volume center として高度の医療を行っています. 内科専門医制度の発足にあたり,連携病院並びに特別連携病院両者との連携による,地域密着型医療研修を通して人材の育成を行いつつ,地域医療の充実に向けての様々な活動を行います. 初診を含む外来診療を通して病院での総合内科診療の実践を行います.又内科系救急医療の修練を行うと同時に,総合内科的視点をもったサブスペシャリストの育成が大切と考えカリキュラムの編成を行います.加えて,医療安全を重視し,患者本位の医療サービスを提供しながら,医学の進歩に貢献できる医

	師を育成することを目的とします.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 76 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 23 名、 日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 10 名、 日本腎臓病学会専門医 7 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、 日本血液学会血液専門医 10 名、日本神経学会神経内科専門医 8 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本救急医学会専門医 2 名、 日本肝臓学会専門医 7 名、 日本老年医学会専門医 3 名、 臨床腫瘍学会 4 名、消化器内視鏡学会専門医 20 名ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者延べ数 270,734 人/年（2023 年度実績） 入院患者数 13,126 人/年（2023 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管カテーテル治療学会教育認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本糖尿病学会専門医認定制度教育施設 日本老年医学会認定施設 日本腎臓病学会腎臓専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

３．住友病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・専攻医各個人に1つずつ座席とロッカーが与えられます。 ・研修に必要なインターネット環境があります。 各個人にそれぞれ1台のPC端末が貸与され常に電子カルテにアクセス可能です。カルテからの情報収集やカルテ記載のために順番待ちをするということはありません。 ・また図書室は24時間使用可能です。100種以上の英文ジャーナルを定期購読しており、専任の司書が存在するので文献検索も容易です。 ・一般財団法人住友病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・院内のレストランは昼食、夕食に利用可能で、病院からの補助があるので1食350～400円程度で質、量ともに満足できます。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室、女子寮が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は26名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2017年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2015年度実績9回）し、専攻医に受講を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・病診連携や病病連携など地域参加型のカンファレンス（基幹施設：中之島地域医療セミナー、臨床集談会、北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会、SOKｓの会（循環器）、新大阪腎疾患カンファレンス、大阪血液疾患談話会、神経内科の集い、大阪肝疾患臨床検討会OLD-CC、呼吸器CRPカンファレンス、なにわ緩和ケアカンファレンス、など；年間60～70回）を定期的に開催し、ローテート中の専攻医に受講を勧め、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2017年度開催予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2013年度実績18体、2014年度23体、2015年度21体）を行っています。

認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、医学写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015年度実績12回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015年度実績10回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2015年度実績3演題）をしています。 ・専攻医が学会に参加・発表する機会が多くあり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。在籍中に筆頭著者として英文論文を複数発表した専攻医も過去に何人もいます。
指導責任者	指導責任者　宇高　不可思 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は大阪医療圏の中心的な急性期病院の一つであり、近隣医療圏にある多くの連携施設と併せて内科専門研修を行っています。 　急性期から慢性期まで、また、common diseaseから専門性の高い疾患の高度医療に至るまで、できる限り多くの症例を主担当医として経験し幅広い知識・技術を習得して頂くとともに、患者の社会的背景の把握、療養環境調整など全人的な医療を実践でき、地域医療にも貢献できる内科専門医の養成を目標としています。 診療科・出身医局・職種間の垣根が低く、連携・協力関係が極めてスムースであるという当院の特色を生かして研修に邁進して頂きたいと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医21名、日本内科学会総合内科専門医14名 日本消化器病学会消化器専門医8名、日本循環器学会循環器専門医4名、日本糖尿病学会専門医5名、日本内分泌学会専門医2名、 日本腎臓病学会専門医4名、日本呼吸器学会呼吸器専門医2名、 日本血液学会血液専門医3名、日本神経学会神経内科専門医5名、 日本アレルギー学会専門医2名、日本リウマチ学会専門医1名、 日本感染症学会専門医1名、日本救急医学会救急科専門医1名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者11、314名（1か月平均）入院患者408名（1か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定医研修施設 日本老年医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設 日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本超音波医学界認定超音波専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本認知症学会認定専門医教育施設　　など

４．大阪労災病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 16 名在籍しています（下記）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・臨床検査科部長）、プログラム管理者（特任院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実 44 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、SAKAI CKD Community、堺腎疾患懇話会、堺糖腎会、堺和泉糖尿病懇話会、南大阪臨床栄養研究会、大阪南インスリン治療フォーラム、南大阪消化器病懇話会など； 2025 年度実績 42 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2025 年度 6 体、2024 年度実績 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ･治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2025 年度実績 11 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 19 演題）をしています。
指導責任者	山内　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 　大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。

	主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本消化器病学会消化器指導医 9 名、日本内分泌学会指導医 3 名、日本人間ドック学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 3 名、日本腎臓学会指導医 3 名、日本老年医学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 5 名、日本超音波医学会指導医 1 名、日本高血圧学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 6 名、日本透析医学会指導医 3 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名、日本神経学会神経内科指導医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 32,880 名（1 ヶ月平均）　入院患者 16,776 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本精神神経学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本神経学会認定准教育施設　など

５．津山中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事総務部担当）があります. ･ハラスメント委員会が津山中央病院に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 13 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会統括責任者　岡　岳文（病院長），研修委員会委員長　北村卓也（副院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）、プログラム管理者　山中俊明（循環器内科部長）（指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています. ･医療倫理研修会（2025 年度実績 2 回）・医療安全研修会（2025 年度実績 4 回）・感染対策研修会（2025 年度実績 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会，津山中央病院主催地域参加型のカンファレンス（CC セミナー2025 年度実績 11 回），定期的に開催される医師会主催講演会（美作医会学術講演会など（2025 年度実績 28 回）に，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会が対応します. ･特別連携施設の専門研修では，電話や週 1 回の津山中央病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 2 体，2023 年度実績 0 体，2024 年度実績 3 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会で学会発表をしています.
指導責任者	岡　岳文【内科専攻医へのメッセージ】 　津山中央病院は，岡山県津山英田医療圏に位置する基幹病院です．岡山県北部はもとより兵庫県の一部も診療圏に含んでおり，高齢化が急速に進んでいる地域です．県北部唯一の救命救急センターを有するため 1 次から 3 次救急までの幅広い症例を経験し，多くの手技を習得することが可能です．さらに県内近隣医療圏の連携施設，特別連携施設での内科研修を経験することで

	幅広い症例を経験し，さらに地域医療へのマインドを持った内科専門医を目指すことが可能です．指導医はもとより病院全体でバックアップします． 主治医として，入院から退院＜初診・入院~退院・通院＞まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります．サブスペシャリティとの併行研修も可能です。できる限り本人の研修の希望に添いたいと思います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名 日本内科学会総合内科専門医 8 名， 日本消化器病学会専門医 5 名，日本消化器内視鏡学会専門医 5 名， 日本循環器学会専門医 7 名，　　日本不整脈学会専門医 2 名， 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名 日本呼吸器学会専門医 2 名，　　日本腎臓学会専門医 1 名， 日本糖尿病学会専門医 1 名，　　日本肝臓学会専門医 1 名， 日本神経学会神経内科専門医　1 名， 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来患者延べ数 6428 名（内科・循環器内科：2024 年度 1 ヶ月平均） 入院患者 422 名（内科・循環器内科：2024 年度 1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 不整脈専門医研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など。

６．国立循環器病研究センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室担当）があります。 ･ハラスメント委員会が人事課に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	指導医は 76 名在籍しています。 ･内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2023 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し（2023 年度実績　8 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2023 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 専門研修に必要な剖検を行っています.（2023 年度　21 体）
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の 学会発表（2023 年度実績 3 演題）をしています．また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2023 年度 383 演題）
指導責任者	野口　輝夫
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 82 名、日本内科学会総合内科専門医 53 名 日本循環器学会循環器専門医 55 名、日本糖尿病学会専門医 7 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 22 名、日本老年医学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 164,222 名　入院患者 158,364 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設

	日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設など

７．水島中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･倉敷医療生活協同組合の職員として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります．また、連携する精神科病院のサービス（EAP カウンセリングルーム）も利用できます。 ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医も安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･院内保育所は敷地内にはありませんが、徒歩圏内に複数の施設があります.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 8 名在籍しています（別紙）。 ・基幹施設に設置されるプログラム管理委員会のもとに内科専攻医研修委員会を設置し連携を図ります。また施設内で研修する専攻医を日常的にサポートします。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・医療倫理講習会を毎年開催（2025 年度実績 1 回）しています。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を保障します。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 2 回）し、専攻医に出席を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間を保障します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野，（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野）を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績 2 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります。（2025 度実績 1 演題）
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】　研修統括責任者　吉井健司 水島協同病院の内科専攻医教育プログラムは，内科領域全般にわたる研修を通して，標準的・全人的な医療を実践するのに必要な知識と技術を修得し，豊かな人間性・プロフェッショナリズム・リサーチマインド・様々な環境下で適切な医療を提供できる能力を育むことを目的としています. 基幹病院である水島協同病院は，倉敷市南部を主要診療圏とする急性期病院で，地域に根差す第一線の病院であるとともに，地域の救急医療を積極的に担っています．また，医療生協のセンター病院・健康づくり地域拠点病院でもあり，地域住民とともに健康づくり・明るいまちづくりに積極的に参加し，保健・予防活動から治療・リハビリまで幅広い活動を行っています. 本プログラムの研修期間は，基幹病院水島協同病院と連携施設・特別連携施設で構成された 3 年間です．プログラムのモデルコースの概要は，最初の 1 年間基幹病院で 3 つの総合内科ブロックをローテートします．各総合内科ブロックでは，多様な疾患・病態のみならず，その病棟に配置された内科専門科を同時に学び症例を経験します．2 年目からは連携施設での経験を重ね，3 年目は基幹病院に戻る，あるいは連携施設，特別連携施設を回るプロ

	グラムとなっています. 　基幹病院での研修の場は，病棟，外来，救急で構成されています．病棟では，受け持ちの患者を診療するのみならず，条件があれば初期研修医を含んだ屋根瓦を構築，チームでの診療や後輩医師の指導も経験します．また，課題別チームに所属し，チーム医療を経験することも可能です．外来研修では，外来単位を受け持ち，急性疾患の対応のみならず，慢性疾患の患者の長期管理・リスク管理・患者教育を経験します．救急研修は総合診療方式で，年齢・性別を問わず多様な症候・疾患に対応します. 　カンファレンスや抄読会も多く，自分が経験できなかった症例などへの知識を補完するとともに，幅広い生きた知識を修得します. 　研修委員会が，定期的な振り返りと自己省察を提供し，常に研修と成長の課題を明らかにするとともに方略を検討して専攻医の研修を後押しします. 　この 3 年間の研修は，内科医師として生涯に渡る診療姿勢，能力向上，成長の礎となるものです．専攻医のみなさんにとって，刺激的で価値ある研修を提供したいと考えています.

８．岡山赤十字病院

認定基準 １）専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・岡山赤十字病院シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 ２）専門研修プログラムの環境	・指導医が 11 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、プログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：医療安全２回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ＣＰＣ を定期的に開催（2025 年度実績５回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間 的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務 付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 ３）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３の全ての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 ４）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	佐久川　亮 【内科専攻医へのメッセージ】　岡山赤十字病院は、岡山県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に当院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数　（常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 21 名、日本消化器病学会指導医２名、日本消化器病学会専門医６名、日本消化器内視鏡学会指導医４名、日本消化器内視鏡学会専門医５名、日本炎症性腸疾患学会指導医１名、日本炎症性腸疾患学会専門医１名、日本胆道学会指導医２名、日本膵臓学会指導医１名、日本肝臓学会指導医１名、日本肝臓学会専門医１名、日本血液学会血液指導医２名、日本血液学会血液専門医４名、日本呼吸器学会指導医３名、日本呼吸器学会専門医４名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医１名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医１名、日本循環器学会認定循環器専門医４名、日本内分泌代謝・糖尿病内科領域専門研修指導医１名、日本糖尿病学会研修指導医１名、日本糖尿病学会専門医３名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医１名、日本腎臓学会腎臓専門医１名、日本ﾘｳﾏﾁ学会指導医１名、日本ﾘｳﾏﾁ学会専門医１名、日本脳卒中学会指導医１

	名、日本脳卒中学会専門医 1 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者 83,155 名（令和 7 年度年間延数） 入院患者 6,467 名（令和 7 年度年間延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本不整脈心電図学会認定不整脈心電図専門医研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設

９．金田病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・金田病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります. ・ハラスメント委員会が金田病院に整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 休憩室, 更衣室, 仮眠室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が5名在籍しています(下記). ・内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 総合内科, 消化器, 循環器, 呼吸器, 血液, アレルギーおよび膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表あり 不定期ですが、日本語・英語論文の発表あり
指導責任者	水島孝明 【内科専攻医へのメッセージ】 金田病院は岡山県の県北真庭地域の中心的な急性期病院であり, 内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い, 内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　5名, 日本内科学会総合内科専門医　5名 日本血液学会・消化器病学会・呼吸器病学会・糖尿病学会各専門医, ほか
外来・入院 患者数	外来患者 2500 名(1 か月平均)　入院患者 130 名(1 か月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて, 研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会教育関連施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本呼吸器病学会教育関連施設 など

１０．福山医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境に加え，シミュレーション室（腹腔鏡，内視鏡，蘇生，気管挿管等）があります. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･談話室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･徒歩１分圏に保育所があり利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･日本内科学会指導医は 10 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･医療安全，感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度受講実績各 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 1 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（地域医療従事者研修）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･院内で JMECC を開催，以降も 1 回/年度予定．プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，救急医療の知識を深めます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています. ･倫理審査委員会を設置し，定期的に開催しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています. ･国立病院総合医学会での発表を推奨します. ･ともに学び，ともに育つ（共学共育型）をスローガンに掲げる学習型病院です.
指導責任者	豊川達也 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構福山医療センターは，広島県東部医療圏の中心的な機能を満たす病院の一つであり，広島県指定がん診療連携拠点病院，エイズ治療拠点病院，地域医療支援病院等の２認定施設として，連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します．また，サブスペシャリストから最新の医療を学ぶことにより，豊富で幅広い知識と経験を積むことができます.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名，日本内科学会総合内科専門医 8 名，日本肝臓学会肝臓指導医 1 名，日本消化器病学会消化器病指導医 3 名，日本内視鏡学会消化器内視鏡指導医 3 名，日本循環器学会循環器専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器指導医 1 名，日本感染症学会感染症指導医 1 名，日本エイズ学会指導医 1 名
外来・入院患者数	2025 年実績（内科） 外来患者数　160.0 名（1 日平均），　3,280.0 名（1 ヶ月平均） 入院患者数　2,776 名（年間）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，肺炎などの呼吸器疾患や消化性潰瘍などの消化器疾患などを中心として、内科領域の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会 教育関連施設 日本消化器病学会 認定施設 日本消化器内視鏡学会 指導施設 日本循環器学会 専門医研修施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本気管支学会 認定施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本肝臓学会 認定施設 日本臨床細胞学会 認定施設 日本プライマリケア学会 認定医研修施設 日本アレルギー学会 認定教育施設 日本がん治療認定医療機構 認定研修施設 日本感染症学会 連携研修施設 日本感染症学会 認定研修施設 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設 等

１１．姫路聖マリア病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･臨床研修病院基幹型研修指定病院で、NPO 法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定施設です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･姫路聖マリア病院正職員として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処するにメンタルヘルスケアシステムがあります。 ･ハラスメント委員会（暴言、暴力の窓口）が院内に設置されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室・更衣室・シャワー室・当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	･指導医が 11 名在籍しています（下記）。 ･内科専攻医研修プログラム委員会にて、基幹施設・連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 17 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2022 年度実績 2 回）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（姫路聖マリア病院オープンセミナー2024 年度実績 12 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医にＪＭＥＣＣ受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科・消化器・呼吸器・腎臓・代謝・血液・感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ･2025 年度行われた剖検数は 3 体です。専門研修に必要な剖検数を得られる予定です。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。 ・今日の診療やメディカルオンラインなどのデータベースに加え、冊子体ジャーナルを 63 タイトル、電子ジャーナル 2 タイトルを取り揃えております。
指導責任者	松村　正 【内科専攻医へのメッセージ】 　姫路聖マリア病院は、救急医療から透析、緩和医療まで広く地域に貢献している急性期病院です。主担当医として、入院から退院までの全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名 日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名 日本消化器病学会消化器病専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 2 名

	日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本アレルギー学会アレルギー専門医 3 名 日本老年病学会老年病専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医　1 名　　ほか
外来・入院患者数	内科外来患者数 3,354 名（2024 年度・1 か月平均）　入院患者 125 名（2024 年度・1 か月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち、稀な疾患を除けば幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	併設された老健施設やホスピスの症例を通して地域医療・病診連携を経験することができます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設（内科） 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修関連施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設 日本透析医学会教育関連施設　　など

１２．南岡山医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります. ･ハラスメントに関する窓口を設け、必要に応じてハラスメント委員会を実施します。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が 3 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して,施設内で研修する専攻医の研修を管理し,基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 2 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野の呼吸器，神経，アレルギーおよび感染症の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています．又,内科系学会への学会発表にも積極できに取り組んでおります。
指導責任者	原口　俊 【内科専攻医へのメッセージ】 　当院は神経・筋疾患や重度心身障害児（者）、アレルギー疾患、呼吸器疾患など特色のある医療を手がけております。従って、神経内科では熱意あふれる指導医のもとで専門研修も行えるように体制を整えています。さらに、これらの分野に興味を持たれる先生方には臨床研究にも積極的に関わっていただくことが可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名，日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本消化器病学会消化器専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 6 名，日本アレルギー学会専門医（内科） 2 名　日本老年医学会専門医 2 名　ほか
外来・入院 患者数	外来患者延べ数 38,084 人/年（2025 年度実績） 入院患者数 1470 人/年（2025 年度実績）
経験できる疾患群	13 領域のうち，5～10 領域の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	呼吸器疾患・神経筋疾患を中心に超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病棟連携なども経験できます.

学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本神経学会専門医制度教育施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本アレルギー学会準教育施設 日本老年医学会認定施設 日本認知症学会教育施設 など

１３．札幌厚生病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･臨床研修指定病院の指定を受けています. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･診療医としての労務環境が補償されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（院内の相談窓口・外部ホットライン）があります. ･監査・コンプライアンス室が厚生連本部に整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が 21 名在籍しています. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 9 回，感染対策 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2022 年度実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，消化器，循環器，代謝，呼吸器および血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. ・専門研修に必要な剖検（2022 年度実績 3 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を行っています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2022 年度 本審査 2 回、小委員会 2 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2022 年度実績 12 回）しています. ･専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり，和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています.
指導責任者	静川　裕彦 【内科専攻医へのメッセージ】 　札幌を代表する総合病院として，内科サブスペシャリティー領域における適切な診断プロセス，最も効果が高い治療ストラテジーの思考・構築を経験することができます. 　また地域がん診療連携拠点病院として、先端的治療から緩和ケアまで，人間味のある幅広い臨床医としての経験ができます．技能と知識に裏付けされた、深みのある人間性を有した優れた内科医を目指しましょう.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 25 名，日本内科学会指導医 21 名，日本消化器病学会指導医 9 名，日本消化器内視鏡学会指導医 10 名，日本肝臓学会指導医 5 名，日本大腸肛門病学会指導医 3 名，日本膵臓学会指導医 5 名，日本胆道学会指導医 4 名，日本呼吸器学会指導医 3 名，日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡指導医 3 名，日本血液学会血液指導医 1 名，日本神経学会指導医 1 名，日本脳卒中学会認定指導医 1 名，日本リウマチ学会指導医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 21,475 名（1 か月平均）　 入院患者 10,622 名（1 か月平均）
経験できる疾患群	1）研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，全て疾患を経験でき，緩和ケアについても経験できます. 2）消化器疾患のうち，炎症性腸疾患は多数の症例を有し，現実に経験ができます.
経験できる技術・	消化器及び呼吸器内視鏡診断，診療技術，循環器に対するインターベンシ

技能	ョナルラジオロジー等の技術，技能が修得できます.
経験できる地域医療・診療連携	JA 北海道厚生連の地域医療活動を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本リウマチ学会教育施設 日本内科学会内科認定医制度教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設（連携施設） 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 循環器疾患診療実態調査参加施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門認定医制度認定施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本消化器がん検診学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 など

１４．心臓病センター榊原病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・心臓病センター榊原病院常勤医師として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署(安全衛生委員会)があります. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように, 更衣室, シャワー室, 当直室が整備されています. ・病院から徒歩 2 分の距離に保育園があり, 利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が10名在籍しています. ・内科専攻医研修委員会を設置して, 施設内で研修する専攻医の研修を管理し, 基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催(2015年度実績　医療倫理　1回, 医療安全30回, 感染対策30回し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンス(2017年度予定)を定期的に参画し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催(2015年度実績1回)し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンス(2017 年度予定)を定期的に開催し, 専攻医に受講を義務付け, そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち, 循環器,消化器, 腎臓, 呼吸器,代謝, 感染症,救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表(2015 年度実績 1 演題)を予定しています.
指導責任者	廣畑　敦 【内科専攻医へのメッセージ】 心臓病センター榊原病院は循環器診療を柱とした岡山県の中心的な急性期病院であり, 川崎医科大学附属病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い, 内科専門医の育成を行います.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　10名, 日本内科学会総合内科専門医　4名 日本循環器学会循環器専門医16名, 日本心血管インターベンション治療学会専門医2名, 日本肝臓病学会専門医1名,日本透析医学会指導医1名, 日本糖尿病学会指導医3名,インフェクションコントロールドクター認定医3名 日本救急医学会専門医 1 名,日本 ICLS コースディレクター1 名,など
外来・入院 患者数	外来患者 5,758 名(1 か月平均)　入院患者 5,511 名(1 か月平均)
経験できる疾患群	研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域, 70 疾患群の症例において、循環器診療や救急疾患を中心に幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	日本屈指の循環器専門病院において、技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を, 実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく, 超高齢社会に対応した地域に根ざした医療, 病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設

	不整脈専門医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 胸部ステントグラフト実施施設 腹部ステントグラフト実施施設 など

１５．福山市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･福山市民病院内科専門研修医として労務環境が保証されています. ･メンタルストレスに適切に対処する組織（臨床研修管理委員会）があります. ･ハラスメントに対する相談窓口を病院総務課に設置し、ハラスメント対策委員会を院内に設置しています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室。シャワー室、当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育施設があり、病児・病後児保育室も利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 23 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のオープンカンファレンス・がん診療連携フォーラムを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･特別連携施設の専門研修では、メールや電話や月 1 回の福山市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、内分泌を除く、総合内科、消化器、循環器、代謝（糖）、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています. 内分泌については、外来で専門診療を行っています. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2019 年度 10 体、2020 年度 1 体※新型コロナウイルスのため減少、2021 年度 11 体、2022 年度 10 体　2023 年度 12 体、2024 年度 6 体、2025 年度 13 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ･倫理審査委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 12 回）しています. ･治験事務局を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 3 演題以上）をしています. 又、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります.(2024 年度実績 24 演題) ･日本内科学会　英文紙（Internal Medicine）への論文投稿に取り組んでおります.

指導責任者	植木　亨 【内科専攻医へのメッセージ】 　福山市民病院は、福山市を中心に、広島県東部から岡山県南西部（井原・笠岡）を医療圏とする急性期基幹病院です．国が指定する、福山・府中二次医療圏の「地域がん診療連携拠点病院」に指定されており、「がん診療」を中心とした高度の専門的医療を展開する一方、3 次救急を受け入れる「救命救急センター」を併設しており、「地域の救急医療」の中心的な担い手ともなっています． 　本プログラムは、地域完結型医療の急性期医療を担当する病院として、協力病院と連携しながら、地域密着型医療研修を通して質の高い内科医を育成することが目標です．地域に根差した病院である当院では、一貫してジェネラルマインドを持ったスペシャリストの養成を目指しています．加えて、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスを提供しながら、医学の進歩に貢献できる医師を育てることを目的とします．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 23 名 日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名 日本消化器内視鏡学会専門医 9 名 日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本腎臓病学会専門医 2 名 日本透析医学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本肝臓学会専門医 3 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医　5 名 日本糖尿病学会専門医 1 名　ほか
外来・入院患者数	外来患者延べ数 214,214 人/年（2025 年度実績） 入院患者延べ数 148,781 人/年（2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門研修プログラム基幹施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本臨床栄養代謝学会認定 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本呼吸療法医学会呼吸療法専門医研修施設 日本不整脈学会心電学会認定不整脈専門医研修施設

	日本感染症学会連携研修施設 日本膵臓学会認定指導施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 日本胆道学会指導施設 日本血液学会認定専門研修認定施設 日本リウマチ学会教育施設 など

１６．昭和医科大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人権啓発推進室）があります。 ・ ハラスメントについても人権啓発推進委員会が昭和医科大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 81 名在籍しています（下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講の機会を提供し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに指導医の在籍していない施設（特別連携施設：診療所や過疎地病院、あるいは研究施設等を想定）での専門研修が含まれる場合には、基幹施設に所属する指導医がその施設での研修指導を行えるような工夫をしています（テレビ電話等)。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全ての領域、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	相良　博典 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学は 8 つの附属病院を有し、東京都内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （内科系所属の常勤医に限定)	指導医数 （常勤医） 日本内科学会認定内科医 91 名、日本内科学会総合内科専門医 52 名、 日本消化器病学会消化器専門医 23 名、日本循環器学会専門医 25 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 8 名、

	日本腎臓病学会専門医 9 名、日本呼吸器学会専門医 16 名、 日本血液学会専門医 7 名、日本神経学会専門医 16 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）10 名、日本リウマチ学会専門医 7 名、 日本感染症学会専門医 3 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4名、 日本肝臓学会専門医 10 名、日本老年医学会専門医 5 名
外来・入院患者数	外来：1999.5 人、入院： 814.1 人（2024年度 一日平均患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	学会認定施設 （病院全体） 日本内科学会認定医制度教育病院日本ｱﾚﾙｷﾞｰ学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設日本内分泌学会認定教育施設日本透析医学会認定施設 日本アフェレシス学会認定施設日本腎臓学会研修施設 東京都区部災害時透析医療ネットワーク会員施設日本内科学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設日本脈管学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設日本消化器病学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 骨髄バンク非血縁者間骨髄採取認定施設・非血縁者間骨髄移植認定施設日本血液学会血液研修施設 日本臨床薬理学会認定医制度研修施設日本老年医学会認定施設 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会研修施設日本循環器学会専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈心電学会植え込み型除細動器／ペーシングによる心不全治療施行施設 日本心臓リハビリテーション学会認定施設日本ｱﾚﾙｷﾞｰ学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設日本透析医学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本心臓リハビリテーション学会認定施設日本麻酔科学会認定病院 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設 特定非営利活動法人婦人科悪性腫瘍研究機構登録参加施設臨床遺伝専門医制度委員会認定研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会専門医指定施設 日本外傷学会外傷専門医研修施設 日本眼科学会眼科研修プログラム施行施設（基幹研修施設） 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会教育研修施設日本東洋医学会指定研修施設

	日本肥満学会認定肥満症専門病院日本胆道学会指導施設 日本医療薬学会がん専門薬剤師研修施設 日本医療薬学会薬物療法専門薬剤師制度研修施設日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ研修会実施期間 日本薬剤師研修ｾﾝﾀｰ研修受入施設 公益社団法人日本診療放射線技師会医療被ばく低減施設認定日本医療薬学会認定薬剤師制度研修施設 全国環境器撮影研究会被ばく線量低減推進認定施設認定 特定非営利活動法人乳がん検診精度管理中央機構マンモグラフィ検診施設画像認定施設 認定輸血検査技師制度協議会認定輸血検査技師制度指定施設公益社団法人日本診療放射線技師会臨床実習指導施設 日本臨床衛生検査技師会精度保証施設

１７．昭和医科大学江東豊洲病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・基幹型臨床研修病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・労務環境が保障されている（衛生管理者による院内巡視・週 1 回)。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課職員担当)、人権啓発推進委員会がある。 ・監査・コンプライアンス室が昭和医科大学本部に整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 31 名在籍している（下記)。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（消化器病研究会、循環器内科研究会、Stroke Neurologist 研究会、関節リウマチ研究会、腎疾患研修会）などを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、呼吸器、神経、腎臓、感染症、アレルギー、代謝、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	伊藤　敬義 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学江東豊洲病院は循環器センター、消化器センター、脳血管センター、救急センターおよび内科系診療センターを有する総合病院であり、連携施設として循環器、消化器、神経疾患および呼吸器疾患をはじめとする内科系疾患全般にわたっての診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。消化器に関しては、食道、胃、大腸などの消化管疾患および肝胆膵疾患などを幅広く経験できます。神経疾患は特に脳血管疾患の急性期の対応から髄膜炎など感染症疾患などを研修できます。呼吸器疾患に関しては、感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して症例を有しております。リウマチ・膠原病疾患なども入院・外来にて多くの症例を経験できます。また総合内科・救急疾患としての症例も豊富でありさまざまな疾患に対応できます。また、専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力を入れています。また全国に連携施設を持っており、充実した専攻医研修が可能です。

指導医数 （内科系所属の常勤医に限定）	日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 26 名、 日本循環器学会循環器専門医 8 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 5 名、日本不整脈心電図学会専門医 2 名、日本心臓病学会専門医 2 名、日本超音波学会認定超音波専門医 1 名、日本消化器病学会専門医 14 名、日本消化器内視鏡学会専門医 13 名、日本消化管学会胃腸科専門医 6 名、日本肝臓学会専門医 4 名、日本ヘリコバクター学会 H.pylori 感染症認定医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本脳卒中学会専門医 3 名、日本脳神経血管内治療学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本がん治療認定医機構認定医 4 名、日本臨床薬理学会専門医 2 名　ほか
外来・入院患者数	外来 473.1 人　入院 316.3 人（2020 年度一日平均患者数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。血液、感染症、救急の領域に関しても、本学附属病院及び連携施設を研修することで経験できます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器および消化器領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設「大学病院」 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本食道学会全国登録認定施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本高血圧学会認定施設 日本アフェレシス学会施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本肝臓学会認定施設　など

１８．昭和医科大学横浜市北部病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･昭和医科大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ･女性医師が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室などが整備されています.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 42 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策などの講習会を定期的に開催（2018 年度実績：医療安全 2 回，感染対策 3 回, 臨床倫理 1 回）し，専攻医に受講を義務付けます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群あるいは地域参加型のカンファレンス（2019 年度予定）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	緒方　浩顕（内科専門研修プログラム統括責任者） 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学は東京都・神奈川県内に 8 つの附属病院及び 1 施設を有し，それらの病院が連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは, 臨床研修修了後に大学各附属病院および連携施設の内科系診療科が連携して，質の高い内科医を育成することを目的としたものです．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです．是非, このような研修環境を利用し, 自らのキャリア形成の一助としてほしいと思います.

指導医数 （内科系所属の常勤医に限定）	指導医数 （常勤医） 日本内科学会認定内科医 53 名、日本内科学会総合内科専門医 28 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、循環器学会循環器専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 23 名、日本腎臓病学会専門医 8 名 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本高血圧学会専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 22 名、日本肝臓病学会専門医 5 名、日本透析医学会専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 3 名
外来・入院患者数	外来：994.7 人、入院：562.5 人/一日平均患者数（2020 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 11 領域，59 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本呼吸器学会　認定施設 日本呼吸器内視鏡学会　認定施設 日本アレルギー学会　認定教育施設 日本アフェレシス学会　認定施設 日本消化器病学会　認定施設 日本消化器内視鏡学会　専門医制度指導施設 日本心血管インターベンション学会　研修施設 日本循環器学会　循環器専門医研修施設 日本神経学会　専門医制度教育施設 日本腎臓学会　研修施設 日本透析医学会　専門医制度認定施設 日本臨床腫瘍学会　研修施設 日本がん治療認定医機構　認定研修施設 日本静脈経腸栄養学会　栄養サポートチーム専門療法士認定規則実地修練認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会　NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会　NST 稼働施設 日本緩和医療学会 認定研修施設 日本内分泌外科学会・日本甲状腺外科学会　専門医制度認定施設　など

１９．昭和医科大学藤が丘病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·ハラスメントについても人権啓発推進委員会が昭和医科大学に整備されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·内科専門研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付けます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，総合内科を除く，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	鈴木　洋 【内科専攻医へのメッセージ】 昭和医科大学は 8 つの附属病院及び 1 施設を有し，神奈川県・東京都を中心に近隣医療圏の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています．本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです．また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです.
指導医数（常勤医）	内科指導医 69 名 総合内科専門医 82 名
外来・入院患者数	外来患者数　851.0 人　入院患者数　422.4 人（2020 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群のうち，少なくとも通算で 56 疾患群，160 症例以上を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本心血管インターベーション治療学会研修施設認定 日本高血圧学会専門医認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本脈管学会認定研修関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本神経学会専門医制度における教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度における認定教育施設

	日本甲状腺学会専門医制度における認定専門医施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設

２０．赤穂市民病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･赤穂市常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ･職員安全衛生委員会（ハラスメント委員会）が院内に整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 6 名在籍しています（下記）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（基幹施設：東備・西播磨循環器カンファレンス、赤穂市医師会オープンカンファレンス、千種川カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･特別連携施設（兵庫県災害医療センター）の専門研修では、電話や週 1 回の赤穂市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ･専門研修に必要な剖検（2023 年実績 2 体、2024 年実績 5 体、2025 年実績 0 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･医の倫理委員会を設置し、開催しています。 ･臨床研究・治験センターを設置しています。また治験審査委員会を設置し定期的に開催しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	高原　典子 【内科専攻医へのメッセージ】 　赤穂市民病院は、兵庫県播磨姫路医療圏の中心的な急性期病院であり、播磨姫路医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 　主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 3 名 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 1 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名 日本肝臓学会専門医 1 名 日本消化管学会専門医 1 名 日本老年医学会専門医 1 名 日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会認定医 1 名 日本がん治療認定医 3 名 日本高血圧学会専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 10,671 名（病院全体 1 ヶ月平均延患者数）　入院患者 5,441 名（病院全体 1 ヶ月平均延患者数）2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門医教育関連施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本病理学会専門医研修登録施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本ペインクリニック学会指定研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本臨床細胞学会教育研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本癌治療認定医認定研修施設 など

２１．愛知県がんセンター

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 16 名在籍しています。 ・医員・レジデント・臨床研修医等委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、呼吸器、血液の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	山本一仁
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 15 名、日本内科学会総合専門医 28 名、日本消化器病学会消化器専門医 22 名、日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名、日本血液学会血液専門医 5 名、消化器内視鏡専門医 13 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 19 名
外来・入院 患者数	2025 年度：外来患者 11,670 名（1 ヵ月平均）入院患者 11,044 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	消化器、呼吸器、血液に関連する腫瘍性疾患
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院、日本消化器病学会認定施設、日本呼吸器学会認定施設、日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設、日本超音波医学会超音波専門医研修施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本大腸肛門病学会認定施設、日本内分泌甲状腺外科学会専門医制度認定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設

２２．神戸労災病院

認定基準 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書館とインターネット環境があります. ･研修中は、原則神戸労災病院常勤嘱託医師として労務環境が保障されます. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）があり、ハラスメント委員会も整備されています. ･女性専攻医のための更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地外に契約保育所があり，病院職員としての利用が可能です（但し、数に制限あることと事前に申請が必要です）.
認定基準 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 9 名在籍しています. ･医師臨床研修管理委員会を設置し，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医にも受講を義務付けます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており，専攻医に特定数以上の受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 演題の学会発表をしています.
指導責任者	佐藤　稔　（総合内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 臨床医には、心(Humanity:豊かな人間性）、技（Art：臨床技能）、知(Physician Scientist:科学的思考能力）の三者が求められています。神戸労災病院では、個々の症例において、そこで起こっていることを丁寧に科学的に考察していきなが ら、ひとり一人の患者さんやその家族に真剣に向き合うことが、心技体の体得に重要であるとの認識を持ち、研修医指導にあたっています。 また、医学の進歩にも貢献できる責任感のある医師を育成することを目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名 日本内科学会総合内科専門医１１名 日本消化器病学会専門医 7 名 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名 日本循環器学会専門医６名 日本糖尿病学会専門医２名 日本肝臓学会専門医４名 日本腎臓学会専門医４名 日本呼吸器学会専門医１名　ほか
外来・入院患者数	外来患者 3,402 名（内科のみの 1 か月平均）入院患者 3,015 名（内科のみの 1 か月平均)
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができますが，希望により研修科を選択いただきます.
経験できる技	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基

術・技能	づきながら幅広く経験することができます.
経験できる医療・地域医療・診療連携	急性期医療はもちろんですが、内科医にとって必須である地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会教育関連施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼動施設

２３．香川県済生会病院

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修病院です。 ･研修に必要な図書室、自習室、インターネット環境に加え、シミュレーションモデル（腹腔鏡、内視鏡、蘇生など）があります。 ･香川県済生会病院 専攻医は、医員（常勤）として労務環境が保障されます。 ･セクシュアル・ハラスメント防止対策委員会が整備されています。 ･女性研修医・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室を整備し、さらに産前産後休暇・育児休業、妊娠期間中の当直免除の申請可能、小学校入学までの当直免除申請可能などの女性医師支援に取り組んでいます。 ･病院対面に子育て支援を目的とした直轄保育所（なでしこ保育所）が利用可能です。 ･福利厚生面の充実に力を入れ、住居費の病院負担（最高5万円まで補助）、昼食費の半額病院負担、学会出張費の病院負担など多岐にわたります。 ･休日出勤日の振替休暇、バースデイ休暇、リフレッシュ休暇、当直翌日の休暇等、健康面に配慮し、働き方改革を遵守した休暇日を設けています。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	･日本内科学会指導医が5名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・院内感染対策講習会を定期的に開催（令和7年度実績　医療安全12回，院内感染対策12回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･内科・外科合同カンファレンスを定期的（週1回）に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（令和7年度実績2回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスとして、実地医家に基づく勉強会や心電図塾を定期的に開催し，専攻医に受講を奨励し，そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13 分野のうち，総合内科を含めた，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急のすべての分野において専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計2演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	尾立　磨琴
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医5名，日本内科学会総合内科専門医2名 日本消化器病学会消化器専門医4名，同 指導医2名， 日本消化器内視鏡学会専門医3名，同 指導医1名， 日本肝臓学会専門医3名，同 指導医2名， 日本消化管学会胃腸科専門医2名，同 指導医1名，

	日本循環器学会循環器専門医 1 名, 日本脈管学会専門医 1 名, 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 1 名, 日本超音波医学会認定超音波専門医 1 名, 日本心血管インターベンション治療学会（CVIT）専門医 1 名, 日本神経学会認定神経内科専門医 1 名，ほか
外来・入院 患者数	外来患者 1 か月平均（9139.2）（全科）、（2637.5）（内科） 入院患者 1 か月平均延数（4602.6）（全科）、（1751.7）（内科）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例をすべて経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携、へき地・離島医療（瀬戸内海巡回診療船 済生丸）なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会指導施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会認定胃腸科指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設

２４．イムス葛飾ハートセンター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書（Web）の環境は整っており、インターネット環境も整備されております。 ・イムスグループとして、適切な労務管理がされており、各種保険にも加入し労務環境も保障されています。 ・女性専攻医が安心して勤務出来るように、更衣室・当直室等は整備されています。また産前産後休暇・育児休暇・妊娠期間中の当直免除の申請可能や、お子様が小学校 3 年生までの勤務時間短縮も可能となっております。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・日本内科学会指導医が 1 名在籍しています。 ・内科専門医研修プログラム研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全・院内感染対策講習会を各年 2 回開催し、専攻医にも受講を義務付けております。（講習会を受けられる様に時間の調整を行います。） ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、循環器・感染・救急の分野においては、定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会及び日本循環器学会の講演会あるいは、同地方大会に年間で 1 演題以上の学会発表をしています。（令和 7 年度実績：2 演題）
指導責任者	竹中　創（たけなか　そう） 【内科専攻医へのメッセージ】 　イムス葛飾ハートセンターは、心臓・大動脈・末梢動脈など循環器疾患に特化した専門病院です。循環器内科と心臓血管外科の専門医が、高度な医療を迅速に 実施しております。50 床という小さな施設ですが、反対に大病院にない小回りの効く診療で、診断から治療までの迅速化と入院期間の短縮に心がけています。近隣のドクター自身の受診や、お知り合いの方のお勧めで受診される方も非常に多く、質が高く丁寧な診療を行う施設として紹介が多いです。そんな施設で質の高い内科医を育成で出来るように指導してまいります。同時にグループのメリットとして、希望があれば、急性期・慢性期・回復期等々が揃っており、自分の興味がある診療科に研修等にも参加が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会認定医　4 名 日本専門医機構内科専門医　1 名 日本内科学会総合内科専門医　3 名 日本循環器学会循環器専門医　7 名 日本不整脈学会・心電学会認定不整脈専門医　1 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医・指導医　4 名
外来・入院 患者数	令和 7 年（2025 年度）平均 外来患者 1 ヶ月平均 2,041（全科）、1,454（内科） 入院患者 1 ヶ月平均延数 1,465（全科）、633（内科）

経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の内、稀な先天性心疾患を除く多くの症例を経験する事が出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験する事が出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢化社会に対応した地域に密着した医療・介護、病診・病院連携なども経験出来ます。
学会認定施設（内科系）	・日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ・日本不整脈心電学会認定　不整脈専門医研修施設 ・日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ・浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 ・ステントグラフト実施施設（胸部・腹部） ・下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術実施施設
学会認定施設（外科系）	・三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設認定 ・心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設 ・日本外科学会外科専門医制度関連施設 ・日本麻酔学科学会麻酔科認定病院 ・日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設

２５．中国中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	初期臨床研修制度　基幹型研修指定病院です 研修に必要な図書室とインターネット環境があります 内科専攻医は常勤医師としての労務環境が保証されています メンタルストレスに適切に対応する部署があります ハラスメント委員会を院内に整備しています 敷地内に院内保育所があり、利用できます 女性専攻医が安心して勤務できるような更衣室や休憩室の配慮を行っています
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	内科指導医が、14 名在籍しています。 内科専門研修プログラム委員会、内科研修委員会を設置しており、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります 医療安全講習会・感染対策講習会を定期に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます 研修施設群合同カンファレンスに参画し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます CPC を定期に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます JMECC の開催を行い、専攻医に受講の機会を確保します 地域参加型カンファレンスを定期に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	内科研修手帳疾患群の 70 疾患群の内、56 疾患群について研修できます（研修手帳疾患領域 13 領域のうち 10 領域以上について研修可能です） 専門研修に必要な剖検を行っています 内科サブスペシャリティ 13 分野のうち、7 分野以上で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	臨床研究が可能な環境を整えています 倫理委員会を設置しています。治験管理室を設置しています 日本内科学会講演会あるいは地方会に年間で年計 3 題以上の学会発表を目指します
指導責任者	広島県東部　福山府中二次医療圏（人口約 52 万人）における地域の中核病院として、長年、内科学会認定教育病院として、認定医、総合内科専門医の育成に力をいれてきました。内科分野の中では、血液、呼吸器、消化器、腎臓、糖尿病、膠原病関連の患者さんが多い病院です。また、中規模病院であるため、専門的な疾患だけではなく、common disease も数多く経験することが可能になります。将来、内科サブスペシャリティ専門医に進むにしても、新しい内科専門医制度の目的である総合内科専門医として活躍できる医師になるための研修をしっかりとしていただきたいと考えています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　14 名　・　日本内科学会総合内科専門医　8 名 日本消化器学会消化器専門医　2 名 日本血液学会専門医　4 名（指導医 2 名） 日本呼吸器学会専門医　3 名（指導医 2 名） 日本糖尿病学会専門医　1 名（指導医 1 名） 日本腎臓学会専門医　2 名（指導医 2 名） 日本リウマチ学会専門医　2 名（指導医 1 名） 日本アレルギー学会専門医　1 名
外来・入院患者数	内科外来患者　実数　10,421 名 内科入院患者　実数　3,396　総入院患者　実数　5,115 名（ドック除く）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、10 領域の症例を幅広く研修することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科領域に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験できます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけではなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病々連携なども経験できます
学会認定施設（内科系）	臨床研修指定病院（基幹型） 日本内科学会認定教育病院 日本血液学会認定血液研修施設・日本輸血・細胞治療学会認定制度指定施設 日本輸血・細胞治療学会 I&A 認定施設 日本呼吸器学会認定施設・日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設 日本消化器病学会認定関連施設・日本消化器内視鏡学会認定指導施設・日本カプセル内視鏡学会認定指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設・日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本医療薬学会認定研修施設（認定、がん専門、薬物療法専門） 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設・日本透析医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本肺癌学会教育認定施設

２６．地域医療機能推進機構 下関医療センター

認定基準 【整備基準24】 1)専攻医の環境	･医局にインターネット、WiFi 環境に加え、図書室に医学図書数約３７０冊、医学雑誌約１８０冊の環境を有します。 ･院内保育施設「ドルフィンキッズ」が設置されており乳幼児（生後３ヶ月から６歳まで）を預けられ安心して研修に従事することができます。また、夜間保育２４時間の対応が可能です。 ･職員の心理的サポート体制として電話相談窓口を設けております。 ･病院から徒歩２分のところに職員宿舎「桜寮」を設置しており、ワンルーム月１６，１００円（車場、共益費別）で利用することができます。下関市内の相場としては格安であり、病院から近く通勤時間が取られず研修に励むことができます。オートロック、電気式宅配ボックス、駐車場を完備。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医が 1 名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置される内科専門研修プログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療安全・院内感染対策講習会を定期的に開催（令和 2 年度実績　医療安全 2 回、院内感染対策 2 回）し、専攻医にも受講を義務付けており、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（令和 4 年 2 月予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付けており、そのための時間的余裕を与えます。 ･レジデントセミナーCPC を定期的に開催（令和元年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付けており、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスとして、総合診療オープンカンファレンス in 下関、 を定期的に開催し、専攻医に受講を奨励し、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、主に消化器、循環器、内分泌、代謝、血液、神経の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	山下智省 【内科専攻医へのメッセージ】 下関医療センターは下関市の中心部に位置する急性期病院です。地域医療支援病院および在宅療養後方支援病院として、下関医療圏全体の急性期医療、二次救急医療を担っています。加えて附属施設として健康管理センター（健診部門）、訪問看護ステーション、介護老人保健施設を有し、予防、在宅、介護療養と幅広い領域をカバーしています。
指導医数 （常勤医）	日本消化器病学会専門医 ： 5 名　　日本循環器学会専門医 ： 4 名 日本内分泌学会専門医 ： 1 名　　日本感染症学会専門医 ： 1 名 日本糖尿病学会専門医 ： 2 名　　日本呼吸器学会専門医 ： 1 名 日本老年医学会専門医 ： 2 名　　日本血液学会専門医 ： 2 名 日本肝臓学会専門医 ： 3 名　　日本神経学会専門医 ： 1 名 日本消化器内視鏡学会専門医 ： 5 名

外来・入院 患者数	外来患者 1 か月平均 8,183（全科）、3,870（内科） 入院患者 1 か月平均延数　5,028（全科）、2,661（内科）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病院介護連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本糖尿病学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床栄養代謝学会 NST 稼動施設 日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（咽喉系）

２７．岡山大学病院

認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	·初期臨床研修制度期間型研修指定病院です。 ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ·岡山大学病院レジデントとして労務環境が保障されています。 ·メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります。 ·ハラスメント委員会が整備されています。 ·休憩室、更衣室、仮眠室、当直室等が整備されています。 ·敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	·指導医が在籍しています（下記）。 ·内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうちすべて（総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会、同地方会、その他国内外の内科系学会で多数の学会発表をしています。
指導責任者	指導責任者：和田　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 　岡山大学病院の基本理念は「高度な医療をやさしく提供し、優れた医療人を育てます。」です。本院は高度先進医療の推進、遺伝子細胞治療などの先端的治療の開発において、全国でもっとも進んだ施設であるとともに、中国四国地方中心に約 250 の関連病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動も行っています。当院の内科研修では、ジェネラルからエキスパートまで質の高い内科医を育成します。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、リサーチマインドを持って医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とします。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 71 名 日本内科学会専門医 68 名 日本消化器内視鏡学会専門医 18 名 日本消化器内視鏡学会指導医 8 名 日本内科学会総合内科専門医 63 名 日本循環器学会循環器専門医 15 名 日本内分泌学会専門医・指導医 11 名

	日本腎臓学会専門医・指導医 17 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医 13 名 日本血液学会血液専門医・指導医 9 名 日本神経学会神経内科専門医・指導医 8 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 13 名 日本糖尿病学会専門医 16 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 43,688.8 名（1 ヶ月平均延数）2025 年 4 月～2026 年 3 月 入院患者 19,943.1 名（1 ヶ月平均延数）2025 年 4 月～2026 年 3 月
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会内科専門研修基幹施設 日本リウマチ学会専門医制度教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会呼吸器専門医認定施設 日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会専門医制度認定教育施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本がん治療認定医機構がん治療認定医制度認定研修施設 日本高血圧学会認定高血圧症専門医制度認定施設 日本脳卒中学会脳卒中専門医制度認定研修教育病院 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本肥満学会専門医制度認定肥満症専門病院 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本胆道学会認定施設 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育病院 日本病院総合診療医学会認定施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 など

２８．広島市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･広島市非常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（職員保健室）があります. ･ハラスメント対応窓口が広島市立病院機構に設置されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育室があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 44 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者・プログラム管理者（内科主任部長，総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します. ･医療倫理講習会（年 2 回）・医療安全講習会（年 6 回）・感染対策講習会（年 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（年 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（医療者がん研修会　年 6 回，マルチケアフォーラム　年 2 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	･カリキュラムに示す内科領域 13 分野の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.（上記） ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2025 年度 9 体，2024 年度 6 体，2023 年度 10 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研修に必要な図書室，インターネット環境を整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（年 11 回）しています. ･治験コーディネーター業務および事務局業務は治験施設支援機関（SMO）に委託しており，定期的に治験審査委員会を開催（年 11 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 5 演題，2023 年度実績 2 演題）をしています.
指導責任者	植松周二 【内科専攻医へのメッセージ】 広島市立広島市民病院は，広島市の中心部に位置し，広島県都市部医療圏の中心的な急性期病院であり，救急医療，がん医療（地域がん診療連携拠点病院），高度医療を担っています．救急診療部，密度の高い救急医療を研修できます．都市部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修をおこない，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を

	目指します. 　主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境整備をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 44 名，日本内科学会総合内科専門医 33 名 日本消化器病学会消化器専門医 14 名，日本肝臓学会肝臓専門医 4 名， 日本循環器学会循環器専門医 9 名，日本内分泌学会専門医 1 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名，日本血液学会血液専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 7 名，日本リウマチ学会専門医 2 名， 日本アレルギー学会専門医 1 名，日本救急医学会救急科専門医 7 名， 日本消化器内視鏡学会専門医 11 名，日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名， ほか
外来・入院患者数	内科系外来患者延数 115,413 名/年　内科系入院患者延数 8380 名/年　救急外来患者延数 18,138 名/年　（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内科学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本血液学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本救急科専門医指定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会連携研修施設 など

２９．神戸市立医療センター中央市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・神戸市立医療センター中央市民病院の任期付正規職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対応出来るよう相談窓口（市役所）を設置及び産業医を配置しています。 ・ハラスメントの防止及び排除並びにハラスメントに起因する問題が生じた場合、迅速かつ適切な問題解決を図るためハラスメント相談窓口及びハラスメント防止対策委員会を設置しています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 38 名在籍しています（下記）。 ・内科研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療安全：6 回、感染対策：2 回、医療倫理：1 回）し、　専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 6 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（腹部超音波カンファレンス、びまん性肺疾患勉強会、がんオープンカンファレンス、緩和ケアセミナー　など 2025 年度実績 32 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症、救急の全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 27 体、2024 年度実績 25 体、2025 年度実績 21 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、学術支援センターなどを設置しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・臨床研究推進センターを設置しています。 ・定期的に IRB、受託研究審査会を開催（2025 年度実績各 12 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 8 演題）をしています。
指導責任者	古川　裕 【内科専攻医へのメッセージ】 当院の診療体制の大きな特徴は、北米型 ER（救命救急室）、つまり 24 時間・365 日を通して救急患者を受け入れ、ER 専任医によって全ての科の診断および初期治療を行い、必要に応じて各専門科にコンサルトするというシステムにあります。年間の救急外来患者数は 26,000 人以上、救急車搬入患者数も 8,000 人を超え、独立した救急部と各科スタッフ、初期研修医、専攻医が緊密に連携して、軽傷から重症までのあらゆる救急患者に対応しています。この中で専攻医は初期研修から各科の専門的診療に至る過程で

	重要な役割をはたしており、皆さんがどの診療科を選択しても、大学病院など 3 次救急に特化した施設では得られない、医療の最前線の広範な経験を重ねることができます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 39 名 日本内科学会総合内科専門医 44 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本アレルギー学会専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 6 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名 日本感染症学会専門医 4 名 日本腎臓学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 4 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名 日本呼吸器学会老年病専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 8 名 日本肝臓学会肝臓専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 8 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 6 名 日本救急医学会救急科専門医 17 名　　ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	外来患者　34,980 名（1 ヶ月平均）2025 年度 入院患者　20,318 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある　13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	神戸市立医療センター中央市民病院内科専門研修プログラム　基幹施設 日本老年医学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベーション学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本脳神経血管内治療学会指定研修施設 呼吸器専門研修プログラム　基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本感染症学会研修施設 日本環境感染学会教育施設

	日本静脈経腸栄養学会栄養サポートチーム専門療法士実地修練認定教育施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本禁煙学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本臨床腫瘍内科学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門研修施設 救急科専門医指定施設　　など

３０．香川大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･香川大学医学部附属病院後期研修医（医員）として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります。 ･ハラスメント相談員が相談に対応します。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 51 名在籍しています（下記）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療倫理 1 回，医療安全 7 回，感染対策 4 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべてにおいて定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	南野　哲男 【内科専攻医へのメッセージ】 　香川大学医学部附属病院は香川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して，質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく，医療安全を重視し，患者本位の医療サービスが提供でき，医学の進歩に貢献し，日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会内科指導医 51 名、日本内科学会総合内科専門医 38 名、 日本消化器病学会消化器病専門医 22 名、日本消化器内視鏡学会専門医 17 名、 日本肝臓学会専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 15 名、 日本内分泌学会専門医 4 名、日本糖尿病学会専門医 4 名 日本腎臓病学会専門医 5 名、日本血液学会血液専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、 日本リウマチ学会専門医 6 名、 日本脳卒中学会専門医 2 名、 日本感染症学会専門医 5 名、 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 5 名、 日本救急医学会専門医 7 名　ほか
外来・入院患者数 2020 年度	年間延外来患者数 252,521 人（全科）、82,725 人（内科）（2025 年度実績） 年間延入院患者数 179,864 人（全科）、57,499 人（内科）（2025 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に

技能	基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本老年精神医学会認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 など

３１．独立行政法人国立病院機構　姫路医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･姫路医療センター期間職員として待遇され賞与、超過勤務手当、当直手当の支給あり、労務環境が保障されています。 ･専攻医用宿舎があります。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（管理課）があります。 ･ハラスメントに関して安全衛生委員会が担当しています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 13 名在籍しています（2025 年 4 月現在）。 ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：河村哲治）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ･指導医も専攻医も研修状態を電子カルテ端末上でリアルタイムに管理できるよう IT 技術を駆使した本院独自の研修支援システムを構築します。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 1 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（月曜会、若手医師のための呼吸器勉強会等）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（姫路市内の病院で共同開催の予定）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･日本専門医機構による施設実地調査にプログラム管理委員会と事務部が対応します。
認定基準 【整備基 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 10 分野において全疾患群について定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。3 分野（内分泌、腎臓、神経）については一部の疾患群で症例数が不足していますが連携施設での研修で十分な研修が可能です。 ･専門研修に必要な剖検（年間平約 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･倫理委員会を設置し、定期的に開催（毎月 1 回開催）しています。 ･臨床研究推進室（治験管理、自主研究管理）を設置し、受託研究審査会も毎月 1 回開催しています。
指導責任者	河村哲治 【内科専攻医へのメッセージ】 ･姫路医療センターには、ややもするとありがちな出身大学間や人間関係の軋轢がなく、アットホームな雰囲気で研修に集中でき、従来の後期研修医からも人気を集めており、後期研修終了後は常勤医師に昇進する例が大多数を占めています。 ･本院独自に開発している研修支援システムは、細かな規則も含めたカリキュラム規定をすべて盛り込んで全専攻医が能率的に確実にカリキュラムを消化できるようにテクニカルな側面から強力に支援を行うものであり、リアルタイムに研修進行過程を視覚的に確認することが可能であり、安心し

	て研修に集中することを支援します。 ･研修支援システムの補助により、内科全科同時研修進行を可能としており、希少症例もタイムリーに経験することを可能とし、無理のない学会報告をも可能としています。 ･サブスペシャルティの並行研修を行うことを強く意識していますが、それを希望する場合は研修支援システムの補助のもと研修進行状況を厳重に管理し実現に向けて最大限の支援を行います。 ･とくに呼吸器、消化器については先進的なサブスペシャルティ研修が可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名 日本内科学会総合内科専門医 19 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本消化器内視鏡学会専門医 9 名 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本糖尿病学会指導医 1 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 17 名 日本呼吸器学会呼吸器指導医 6 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 9 名 日本呼吸器内視鏡学会指導医 4 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本リウマチ学会専門医 4 名 日本リウマチ学会指導医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本感染症学会指導医 1 名　　ほか
外来・入院患者数 （内科全体の）	内科系の外来患者 7,030 名（1 ヶ月平均） 内科系の入院患者 5,910 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例について、腎疾患、神経疾患については一部の疾患群で症例数が不足しているが、その他は幅広く経験することができます。不足領域は連携病院での研修で十分研修できます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 など

３２．京都大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ・医員室（院内 LAN 環境完備）・仮眠室有 ・専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・ハラスメント委員会が整備されています. ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ・敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 103 名在籍しています.（2024 年度） ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：内科系 CPC（2024 年度 5 回開催）、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野，総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会を含め 2024 年度は計 20 題の学会発表をしています.
指導責任者	笹井　蘭（免疫・膠原病内科） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都大学病院は地域医療と密接に連携した高水準の診療と未来の医療を創造する臨床研究に力を注いでいます。本プログラムの目的は初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が地域の協力病院と連携して、総合力にも専門性にも優れた内科医を養成することです。患者中心で質の高い安全な医療を実現するとともに、新しい医療の開発と実践を通して社会に貢献し、専門家の使命と責任を自覚する志高く人間性豊かな医師を育成します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 103 名 日本内科学会総合内科専門医 150 名 日本消化器病学会消化器専門医 67 名 日本肝臓学会専門医 16 名 日本循環器学会循環器専門医 23 名 日本内分泌学会専門医 19 名 日本糖尿病学会専門医 24 名 日本腎臓病学会専門医 31 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 20 名 日本血液学会血液専門医 31 名 日本神経学会神経内科専門医 43 名 日本アレルギー学会専門医（内科）0 名 日本リウマチ学会専門医 28 名 日本感染症学会専門医 9 名、臨床腫瘍学会 6 名、老年医学会１名、消化器内視鏡学会 61 名

外来・入院患者数（内科全体の）	内科系外来患者 270,981 名（2024 年度延べ数） 内科系入院患者 98,476 名（2024 年度延べ数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	（社）日本血液学会認定専門研修認定施設 血友病診療　地域中核病院　認定施設 （財）日本骨髄バンク（社）日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間骨髄採取認定施設 （財）日本骨髄バンク非血縁者間末梢血幹細胞採取認定施設 （社）日本造血・免疫細胞療法学会非血縁者間造血幹細胞移植認定診療科 （公）日本臨床腫瘍学会認定研修施設 （社）日本 HTLV-1 学会登録医療機関 （社）日本内分泌学会認定教育施設 （社）日本糖尿病学会認定教育施設 （社）日本甲状腺学会認定専門医施設 （社）日本肥満学会認定肥満症専門病院 （社）日本病態栄養学会認定栄養管理・ＮＳＴ実施施設 （社）日本病態栄養学会認定病態栄養専門医研修認定施設 （社）日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 関連１０学会構成ステントグラフト実施基準管理委員会胸部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 関連１０学会構成ステントグラフト実施基準管理委員会腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 （社）日本心血管インターベーション治療学会研修施設 （社）日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 経カテーテル的大動脈弁置換術専門施設 心房中隔欠損症に対する経皮的心房中隔欠損閉鎖術実施施設 （社）日本成人先天性心疾患学会認定成人先天性心疾患専門医総合修練施設 （社）日本動脈硬化学会専門医教育病院 （社）日本磁気共鳴医学会　MRI 対応植込み型不整脈治療デバイス患者の MRI 検査実施施設 （社）日本不整脈心電図学会　パワードシースによる経静脈的リード抜去術_レーザシース認定施設 （社）日本不整脈心電図学会　パワードシースによる経静脈的リード抜去術_Evolution 認定施設 卵円孔開存閉鎖術実施施設 左心耳閉鎖システム実施施設 トランスサイレチン型心アミロイドーシスに対するビンダケル導入施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設 心房細動に対するバルーンを用いた肺静脈隔離術の施設認定 経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術［POLARx 冷凍アブレーションカテーテル］（ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社）〞 家族性高コレステロール血症紹介可能施設

	パルスフィールドアブレーション［PulseSelect］の施設認定（日本メドトロニック株式会社） パルスフィールドアブレーション［VARIPULSE］の施設認定（ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社） パルスフィールドアブレーション［FARAPULSE］の施設認定（ボストン・サイエンティフィック ジャパン株式会社） （財）日本消化器病学会認定施設 （社）日本消化器内視鏡学会指導施設 （社）日本肝臓学会認定施設 （社）日本呼吸器学会　呼吸器内科領域専門研修制度　基幹施設 （特）日本呼吸器内視鏡学会認定施設 （社）日本アレルギー学会認定教育施設（呼吸器内科） （社）日本リウマチ学会教育施設 （社）日本救急医学会救急科専門医指定施設（093） （社）日本救急医学会指導医指定施設 （社）日本熱傷学会熱傷専門医認定研修施設 （社）日本高気圧潜水医学会認定施設 （社）日本神経学会認定教育施設 （社）日本てんかん学会研修施設 （社）日本てんかん学会認定　包括的てんかん専門医療施設 （社）日本脳卒中学会研修教育施設 （社）日本脳卒中学会一次脳卒中センター （社）日本認知症学会教育施設 （社）日本老年医学会認定施設 （社）日本東洋医学会認定研修施設 （社）日本臨床神経生理学会認定施設 （社）日本神経病理学会認定施設 （社）日本透析医学会専門医制度認定施設 （社）日本腎臓学会研修施設 （社）日本アフェレシス学会認定施設 （特）日本急性血液浄化学会認定指定施設 （特）日本高血圧学会専門医認定施設 （社）日本消化管学会　胃腸科指導施設

３３．京都桂病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･嘱託常勤医師として労務環境が保障されています. ･ハラスメント相談及び苦情対応窓口あり. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･内科指導医は 30 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会 [　統括責任者　　：宮田　仁美（血液浄化センター長，腎臓内科部長，指導医），　統括副責任者　：菱澤　方勝（血液内科部長，指導医）， 研修管理委員長：西村　尚志（副院長，呼吸器内科部長，指導医）　] ･専門医研修プログラム委員会にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と研修管理事務局を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･内科合同カンファレンスを定期的に主催（2024 年度実績 8 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.（IMEC-K） ･CPC を定期的に開催（2025 年度実績 7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･西京医師会と共同し、地域参加型のカンファレンスを定期的に多数開催しています. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に研修管理事務局が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検を行っています.（2025 年度実績 10 体）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室を整備しています. ･臨床倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ･治験委員会，臨床研究・倫理委員会が別にあり、各毎月 1 回開催しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	宮田　仁美（血液浄化センター長，腎臓内科部長，指導医） 【内科専攻医へのメッセージ】 京都・乙訓医療圏南部の急性期病院で、地域がん診療拠点病院でかつ地域医療支援病院です．地域の医療施設と連携しつつ責任感を持って地域の医療に貢献しています。同時に、初期および後期臨床研修病院として、医師のみならず多くの医療職の教育研修を行ってきました．そのような環境の中で、内科という医療の中でも中核を担う領域で、全人的・患者中心かつ標準的・先進的内科的医療の実践を志す内科専門医志望者を、連携病院とともに丁寧に育てていきたいと考えています.

指導医・専門医 （常勤医）	内科指導医 30 名 日本内科学会指導医，日本内科学会総合内科専門医（30 名） 日本消化器病学会消化器専門医，日本循環器学会循環器専門医， 日本糖尿病学会専門医，日本腎臓病学会専門医， 日本呼吸器学会呼吸器専門医，日本血液学会血液専門医， 日本神経学会神経内科専門医，日本アレルギー学会専門医， 日本リウマチ学会専門医， 日本救急医学会救急科専門医，　　ほか
外来・入院患者数	総外来患者 177,341 名（年間実数）　総入院患者 19,864 名（年間実数）
病床数	551 床　（一般病棟 545 床，結核 6 床）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器内視鏡学会 専門医制度認定施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本臨床腫瘍学会 認定研修施設 日本消化器病学会 専門医制度認定施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会 研修施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本内分泌学会 認定教育施設 日本甲状腺学会 認定専門医施設 日本内科学会 認定医制度教育病院 日本循環器学会 循環器専門医研修施設 日本骨髄バンク 非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 日本血液学会 認定血液研修施設 日本消化器内視鏡学会 専門医制度指導施設 日本リウマチ学会 教育施設 日本救急医学会 救急科専門医指定施設 日本不整脈学会日本心電学会認定 不整脈専門医研修施設 日本胆道学会認定施設指導医制度 指導施設認定 日本気管食道科学会 研修施設認定 日本消化管学会 胃腸科指導施設 日本肝胆膵外科学会 高度技能専門医修練施設 B 日本腎臓学会 研修施設 日本アフェレシス学会 認定施設 日本超音波医学学会認定超音波専門医研修施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本造血細胞移植学会認定 非血縁者間造血幹細胞移植認定施設 JALSG（日本成人白血病治療合同研究グループ）参加施設 経皮的カテーテル心筋冷凍焼灼術に関する施設　　など

３４．東京品川病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤（嘱託）医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備され、産前産後休暇・育児休暇等を整備しています。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・内科指導医が 25 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・内科合同のカンファレンスを週1回30分開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・内科系各診療科のカンファレンスを定期的に開催しています。 ・総合内科主催の抄読会を適宜開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地域連携症例報告会）を開催し、発表を含め参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・JMECC受講：内科専攻医は必ず専門研修１年もしくは2年までに1回受講します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 題程度の学会発表を予定しています。
指導責任者	新海　正晴 【内科専攻医へのメッセージ】 東京品川病院内科専門研修は総合内科制です。内科専攻医は総合内科かつ各サブスペシャリティ診療科に所属します。実際の研修は、入院症例については、内科系各サブスペシャリティ領域の指導医と 2 人体制または初期研修医を加えた 3 人体制で担当します。サブスペシャリティ領域を細切れに研修するのではなく、内科の広い範囲を年間通して研修します。この継続性がかかりつけ医としての素養や病院での総合内科（Generality）の専門医としての素養を身につけることになります。 一方で、内科の各サブスペシャリティ領域の指導医がおり、指導医とともに症例を担当することで、各分野の最新のエビデンスに基づいた標準的な医療、安全な医療を研修でき、サブスペシャリティ領域の研修にもなり、総合内科的視点をもった Subspecialist としての素養を養います。 外来においては、総合内科としての外来診療および各サブスペシャリティ診療科の外来を研修します。具体的には、内科の新患・当日受付外来、日中の救急外来を当番制で担当します。また、内科の日当直を当番制で担当しますので、

	休日夜間の内科系 2 次救急医療の研修となります。各サブスペシャリティ診療科の外来、総合内科外来も週 1 回以上担当します。 内科系のサブスペシャリティ領域の専門医を目指す方にも、総合診療を目指す方にも大変良い環境です。サブスペシャリティ領域をまだ決めていない場合でも研修を通じて決定して行くことができます。
指導医数 （内科系所属の常勤医に限定）	日本内科学会内科指導医 15 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名,指導医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名，日本消化器病学会消化器専門医 8 名,指導医 3 名，日本肝臓学会専門医 2 名，日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本脳卒中学会専門医 1 名，日本内分泌学会専門医 1 名,指導医 1 名，日本糖尿病学会専門医 1 名,指導医 1 名，日本腎臓病学会専門医 1 名,指導医 1 名,日本血液学会血液専門医 1 名,指導医 1 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名、
外来・入院患者数	年間外来延患者数 202,545（全科） 年間入院延患者数 143,757（全科）
経験できる疾患群	極めて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、70 疾患群について幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診・病病連携や連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会専門研修プログラム基幹施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本血液学会認定専門研修教育施設 日本肝臓学会肝臓専門医制度関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 日本脳卒中学会　一次脳卒中センター認定施設（PSC）コア 日本脳神経外科学会　専門研修プログラム連携施設 日本糖尿病学会認定教育施設 I

３５．新東京病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・労働安全衛生委員会にて産業医が出席しており、職員の労務環境が管理されております。 ・メンタルストレスに適切に対処する会社と委託契約を行っております。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直 室が整備されています。 ・敷地外(松戸駅東口から徒歩5分)に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が9名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績：医療倫理１回、医療安全２回、感染対策４回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2024年度実績１回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち，循環器，消化器の分野で定常的に 専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	希望があれば日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表ができます。※詳細は当院学会参加規程による
指導責任者	朴澤　耕治
指導医数 （内科常勤医）	＜内科＞　１名　　＜呼吸器内科＞　1名 ＜心臓内科＞　4名　　＜総合内科＞　1名 ＜消化器内科＞　2名
外来・入院患者数	内科外来患者　10,730名　内科入院患者　449名/年（1カ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて，研修手帳（疾患群項目表）にある 2 領域（循環器、消化器），19 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器および消化器領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した，地域に根ざした医療，病診・ 病院連携などを経験できます。
学会認定施設 （内科系）	・循環器専門医研修施設 ・日本心血管ｲﾝﾀｰﾍﾞﾝｼｮﾝ治療学会研修施設 ・不整脈専門医研修施設 ・日本脈管学会認定研修指定施設 ・浅大腿動脈ステントグラフト実施施設 ・IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設 ・経カテーテル的大動脈弁置換術（TAVR）専門施設 ・経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設 ・経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設 ・経皮的心房中隔欠損閉鎖術施行施設 ・潜因性脳梗塞に対する卵円孔開存閉鎖術実施施設 ・左心耳閉鎖システム実施施設 ＜消化器内科＞ ・日本消化器病学会専門医認定施設 ・日本消化器内視鏡学会指導施設

	・日本消化管学会胃腸科指導施設 ・日本炎症性腸疾患学会指導施設 ・日本胆道学会指導施設 ・日本肝臓学会認定施設 ・日本膵臓学会認定指導施設 ・日本消化器がん検診学会認定指導施設

３６．会津中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要なインターネット環境が施設内に整備されています。 ･会津中央病院シニアレジデントとして適切な労務環境が保障されています。 ･基幹施設と連携し、メンタルストレスに適切に対処します。 ･ハラスメントに関する特別委員会が整備されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、仮眠室、更衣室、シャワー室、当直室を整備し、さらに産前産後休暇・育児休業、妊娠・育児期間中の当直免除可能などの女性医師支援に取り組んでいます。 ･近隣に附属保育園があり、保育所および病児保育が利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が２名在籍しています。 ･内科専門研修プログラム管理委員会と連携する委員会を施設内に設立し、専門研修プログラム連携施設担当者を置いています。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･院内で開催される CPC、基幹施設で行われる CPC への受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、消化器科、循環器科、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計１演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	岩尾年康
指導医数 （内科系所属の常勤医に限定）	日本内科学会認定医２名、日本消化器病学会消化器専門医１名 日本循環器学会循環器専門医１名
外来・入院患者数	年間総外来患者数 212,735（全科）、57,420（内科） 年間総入院患者数 189,831（全科）、45,722（内科）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域のうち、消化器科、循環器科、救急分野の疾患群の症例を概ね経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

３７．水島協同病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·倉敷医療生活協同組合の職員として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります．また、連携する精神科病院のサービス（EAP カウンセリングルーム）も利用できます。 ·ハラスメント委員会が整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ·院内保育所は敷地内にはありませんが、徒歩圏内に複数の施設があります.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 9 名在籍しています（別紙）。 ・基幹施設に設置されるプログラム管理委員会のもとに内科専攻医研修委員会を設置し連携を図ります。また施設内で研修する専攻医を日常的にサポートします。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024 年度実績　医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・医療倫理講習会を毎年開催（2024 年度実績 1 回）しています。 ・研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間を保障します。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 3 回）し、専攻医に出席を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に参加を義務付け、そのための時間を保障します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野，（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野）を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2024 年度実績 3 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでおります。（2024 年度実績 2 演題）
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】　研修統括責任者　吉井健司 水島協同病院の内科専攻医教育プログラムは，内科領域全般にわたる研修を通して，標準的・全人的な医療を実践するのに必要な知識と技術を修得し，豊かな人間性・プロフェッショナリズム・リサーチマインド・様々な環境下で適切な医療を提供できる能力を育むことを目的としています. 基幹病院である水島協同病院は，倉敷市南部を主要診療圏とする急性期病院で，地域に根差す第一線の病院であるとともに，地域の救急医療を積極的に担っています．また，医療生協のセンター病院・健康づくり地域拠点病院でもあり，地域住民とともに健康づくり・明るいまちづくりに積極的に参加し，保健・予防活動から治療・リハビリまで幅広い活動を行っています. 本プログラムの研修期間は，基幹病院水島協同病院と連携施設・特別連携施設で構成された 3 年間です．プログラムのモデルコースの概要は，最初の 1 年間基幹病院で 3 つの総合内科ブロックをローテートします．各総合内科ブロックでは，多様な疾患・病態のみならず，その病棟に配置された内科専門科を同時に学び症例を経験します．2 年目からは連携施設での経験を重ね，3 年目は基幹病院に戻る，あるいは連携施設，特別連携施設を回るプロ

	グラムとなっています. 　基幹病院での研修の場は，病棟，外来，救急で構成されています．病棟では，受け持ちの患者を診療するのみならず，条件があれば初期研修医を含んだ屋根瓦を構築，チームでの診療や後輩医師の指導も経験します．また，課題別チームに所属し，チーム医療を経験することも可能です．外来研修では，外来単位を受け持ち，急性疾患の対応のみならず，慢性疾患の患者の長期管理・リスク管理・患者教育を経験します．救急研修は総合診療方式で，年齢・性別を問わず多様な症候・疾患に対応します. 　カンファレンスや抄読会も多く，自分が経験できなかった症例などへの知識を補完するとともに，幅広い生きた知識を修得します. 　研修委員会が，定期的な振り返りと自己省察を提供し，常に研修と成長の課題を明らかにするとともに方略を検討して専攻医の研修を後押しします. 　この 3 年間の研修は，内科医師として生涯に渡る診療姿勢，能力向上，成長の礎となるものです．専攻医のみなさんにとって，刺激的で価値ある研修を提供したいと考えています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名 日本内科学会総合内科専門医 7 名 日本神経学会神経内科専門医 3 名 ほか
外来・入院患者数	【2024 年度実績】 入院延患者数： 84,033 名 外来延患者数：138,288 名
経験できる疾患群	非常に稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に記された必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携・訪問診療・診療所なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導連携施設 日本呼吸器学会専門医制度特別連携施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会教育研修施設 日本栄養治療学会　ＮＳＴ稼働施設 日本病院会病院総合医育成プログラム認定施設 など

３８．久留米大学病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·久留米大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレスに適切に対処する部署（保健管理センター）があります. ·ハラスメント委員会が久留米大学に整備されています. ·女性専攻医が安心して勤務できるように各施設を整備しています. ·敷地内に院内保育所があり，病児保育，病後児保育を含め利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·指導医が 109 名在籍しています（下記）. ·専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設及び連携施設に設置されている専門医研修委員会と連携を図ります. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	● カリキュラムに示す内科療育 13 分野全てを網羅し,それぞれの分野で定常的に 専門研修が可能な 症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	● 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2025 年度実績　18 演題）をしています.
指導責任者	川口　巧 【内科専攻医へのメッセージ】 久留米大学病院は、地域医療の核として、また高度先進医療を提供する特定機能病院として、県内外の広範な協力病院と緊密に連携し、優れた人材の育成に邁進しています。 本研修プログラムは、当院の 6 つの内科部門が連携施設と一丸となり、確かな診断力と治療技術、そして高い倫理観を備えた「質の高い内科医」を育成することを目指しています。私たちは医療安全を最優先に掲げ、患者本位の質の高い医療サービスを提供するとともに、大学病院ならではの充実した研究環境と臨床データを活かし、医学の進歩に寄与できる医師を養成します。 地域医療の現場から高度な先進医療まで、幅広く研鑽を積むことができる本プログラムを通じて、福岡・九州のみならず、未来の医療を支える志高い先生方を全力でサポートいたします。
指導医数 （常勤医） ［2026 年度］	日本内科学会指導医 109 名，日本内科学会総合内科専門医 66 名 日本消化器病学会消化器専門医 34 名，日本循環器学会循環器専門医 53 名， 日本内分泌学会専門医 6 名，日本糖尿病学会専門医 8 名， 日本腎臓病学会専門医 11 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名， 日本血液学会血液専門医 5 名，日本神経学会神経内科専門医 4 名， 日本アレルギー学会専門医 3 名，日本リウマチ学会専門医 4 名， 日本感染症学会専門医 1 名，日本肝臓学会肝臓専門医 24 名， 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 4 名ほか
外来・入院患者数	外来患者（内科）171,501 名（/年）・入院患者（内科）77,221 名（/年）

［2025 年度実績］	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝内科教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 関連 11 学会構成胸部・腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 骨髄移植推進財団非血縁者間骨髄採取・移植認定施設 骨髄移植推進財団非血縁者間末梢血幹細胞採取・移植認定施設 経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会専門施設 日本肺癌学会教育認定施設 日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設 ほか

３９．愛媛県立中央病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ※県非常勤医師として労務環境が保障されています ・メンタルストレス（ハラスメント含む）に適切に対処する部署（総務医事課担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医は35名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長)、プログラム管理者（主任部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会の受講を、専攻医に義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2024年度9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、年に1回院内で開催しています。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくても7分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記)。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても35以上の疾患群）について研修できます（上記)。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 13 体、2023 年度実績 8 体、2022 年度実績 10 体を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 9 回）しています。
指導責任者	副院長（消化器内科）　二宮　朋之 【内科専攻医へのメッセージ】 愛媛県立中央病院は、愛媛県松山医療圏の中心的な急性期病院であり、高度救命救急センターを併設しています。コモンディジーズからまれな疾患まで、また救急医療からがんの診断・治療までと、幅広い患者を経験できます。さらに地域の連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数 （内科系所属の常勤医に限定）	日本消化器病学会消化器専門医数　13、日本循環器学会循環器専門医数　8、 日本内分泌学会専門医数　2、日本糖尿病学会専門医数　5、日本腎臓病学会専門医数　3、　日本呼吸器学会呼吸器専門医数　7、日本血液学会血液専門医数　8、日本神経学会神経内科専門医数　5、日本アレルギー学会専門医（内科）数　2、日本リウマチ学会専門医数　0、日本肝臓学会専門医　8、臨床腫瘍学会専門医　2、消化器内視鏡学会専門医　13、日本感染症学会専門医数　2、日本老年学会専門医数　3、ほか
外来・入院患者数	外来患者 25,754 名（1 ヶ月平均）　入院患者 15,217 名（1 ヶ月平均）

経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本老年医学会認定施設、日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会専門医認定施設、日本血液学会認定血液研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会指導施設、日本腎臓学会研修施設、日本透析医学会認定施設、 日本神経学会専門医制度教育施設、日本アレルギー学会認定教育施設、日本救急医学会救急科専門医指定施設、日本呼吸器内視鏡学会認定施設、日本臨床腫瘍学会認定研修施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本糖尿病学会認定教育施設、日本高血圧学会専門医認定施設、 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設、日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼働施設、日本消化管学会胃腸科指導施設、日本感染症学会連携研修施設、非血縁者間骨髄採取認定施設、非血縁者間骨髄移植認定施設、 非血縁者間末梢血幹細胞採取（移植）認定施設、日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本不整脈心電学会専門医研修施設、日本病院総合診療医学会認定施設、日本プライマリ・ケア連合学会認定　総合診療医・家庭医後期研修プログラム認定施設、日本東洋医学会研修施設、ステントグラフト実施認定施設など

４０．岡山市立市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･後期研修医として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生管理室）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専門医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 27 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：副院長）、プログラム管理者（内科主任部長、総合内科専門医および指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専門医の研修を管理する内科専門研修委員会と卒後臨床教育研修センターを設置しています. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（web 開催含む）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2024 年度実績 2 回）し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（岡山市立市民病院病診連携研修会（3S 会、3 回）を定期的に開催し、専門医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専門医に JMECC 受講（2024 年度当院開催 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ･日本専門医機構による施設実地調査に卒後臨床教育研修センターが対応します. ･特別連携施設群（光生病院、岡山市立せのお病院、美作市立大原病院、岡山市久米南町組合立国民健康保険福渡病院、地方独立行政法人玉野医療センターたまの病院、井原市立井原市民病院、矢掛町国民健康保険病院、高梁市国民健康保険成羽病院、備前市国民健康保険市立吉永病院、真庭市国民健康保険湯原温泉病院、医療法人東浩会石川病院、総合病院岡山赤十字病院玉野分院、笠岡市立市民病院、医療法人清梁会高梁中央病院、医療法人井口会総合病院落合病院、赤磐医師会病院、医療法人和陽会まび記念病院、社会医療法人緑壮会金田病院、特定医療法人中島病院、社会医療法人祥和会脳神経センター大田記念病院、倉敷成人病センター）は岡山県内の中小自治体病院を主体に形成されており、特別連携施設の専門研修では、電話（またはインターネット電話）や週 1 回の岡山市立市民病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、総合内科、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 13 体、2023 年度実績 10 体、2022 年度実績 10 体、2021 年度実績 12 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】	･臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 10 回）しています.

4)学術活動の環境	･治験センターを設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2024 年度実績 10 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2024 年度実績 8 演題）をしています.
指導責任者	洲脇　俊充 【内科専門医へのメッセージ】 岡山県岡山市西部を中心とした医療圏の重要な急性期病院（『岡山 ER』と称する救急医療拠点および DMAT を擁する災害医療拠点）であり、岡山県南東部に加え岡山県内の医療圏全域にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 27 名、日本内科学会総合内科専門医 25 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、日本血液学会血液専門医 5 名、 日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 6 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 6,337.2 人（1 ヶ月平均）　入院患者 10,058.6 人（1 ヶ月平均延数）（新規入院患者 479.8 人（1 ヶ月平均））（2024 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本リウマチ学会専門医制度教育施設･新リウマチ専門研修認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設（内科） 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器外科学会認定専門医制度指定修練施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本癌治療学会がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本病態栄養学会栄養管理・NST 実施施設 2 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本神経学会認定専門医制度准教育施設 日本内分泌学会専門医制度認定教育施設

	日本腎臓学会専門医制度研修施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定 日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設 浅大腿動脈ステントグラフト実施基準管理委員会認定施設 日本栄養士会栄養サポートチーム担当者研修認定教育施設 日本内分泌学会専門医制度関連施設 日本感染症学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定施設 日本胃癌学会認定施設 B　など

４１．国立病院機構柳井医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室、自習室、インターネット環境に加え、スキルアップラボを備えています。 ･国立病院機構就業規則により労務環境が保障されています。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室を整備し、さらに産前産後休暇・育児休業などの女性医師支援に取り組んでいます。 ･敷地内に職員専用の保育所があります。 ･福利厚生面の充実に力を入れ敷地内に宿舎があり、希望者はおおむね利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	･医療安全・院内感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績　医療安全 27 回，院内感染対策 2 回）しています。 医療安全・院内感染対策研修会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 脳神経内科カンファレンス（初診患者を中心）を平日は毎日（初診以外は適宜）開催しており、専攻医に参加を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 9 分野のうち、脳神経、脳卒中の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会中国支部評議員会が 2 名在籍しており、積極的に学会への参加を行っています。
指導責任者	今村　栄次 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は主として神経筋難病を中心とした脳神経内科領域の専門病院で患者は山口県のみならず広島県からも多数紹介頂いております。療養介護病棟では重度心身障害児（者）および神経筋難病患者の医療・ケアも行っています。人工呼吸器が常に６０台前後稼働して呼吸器管理の研修も可能です。さらに、平成２７年８月山口県より認知症疾患医療センターに指定され柳井医療圏の認知症医療、ケアの中心的な病院でもあります。外科領域では一般的な消化器外科のみならず救急治療（腹部内臓疾患)、血液及び腹膜透析治療を行っております。 また、令和６年３月山口県より難病診療分野別拠点病院（神経・筋疾患）に指定されました。神経・筋疾患の高度な専門医療の提供や地域連携及び治療継続支援を行います。
指導医数 （内科系所属の常勤医に限定）	日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名
外来・入院患者数	年間総外来患者数 15,820（全科)、9,992（内科） 年間総入院患者数 98,101（全科)、73,766（内科）
経験できる疾患群	神経領域の 9 疾患群のうち大半が経験可能です。
経験できる技術・	人工呼吸器管理や腰椎穿刺などを中心に、実際の症例に基づきながら幅広く

技能	経験することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	超高齢社会に対応した根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度教育施設

４２．みずしま協同クリニック

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要なインターネット環境があります. ・倉敷医療生活協同組合の職員として労務環境が保障されています. ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります．また、連携する精神科病院のサービス（EAP カウンセリングルーム）も利用できます. ・ハラスメント委員会が整備されています. ・院内保育所は敷地内にはありませんが、徒歩圏内に複数の施設があります.
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・当クリニック併設の連携施設である水島協同病院において、研修する専攻医の研修を管理する研修委員会を設置しており、研修する専攻医を日常的にサポートします. ・当クリニック併設の連携施設である水島協同病院において、医療安全・感染対策講習会・医療倫理講習会を定期的に開催しており、専攻医には受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・他の環境についても、当クリニック併設の連携施設である水島協同病院に準じます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野，（総合内科，消化器，循環器，内分泌，代謝，腎臓，呼吸器，血液，神経，アレルギー，膠原病，感染症および救急の分野）を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	
指導責任者	【内科専攻医へのメッセージ】　指導責任者　大橋英智 　当クリニックは、水島協同病院と同じ敷地内に 2025 年 6 月に開設しました．「いつでも、だれもが、安心してかかれる医療を追求します」を理念に掲げ、内科・外科・小児科など複数診療科の外来診療とともに、在宅医療（訪問診療等）にも取り組んでいます. 　当クリニック併設の連携施設である水島協同病院で研修される専攻医の方は、研修期間中、内科外来診療は当クリニックにて担当いただきます．（病棟・救急は水島協同病院にて担当）希望があれば、専攻医の方が訪問診療の単位を持ち、継続的に担当いただくことも可能です. 　専攻医の皆さんにとって、充実した価値ある研修を提供したいと考えています.
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 1 名 日本内科学会総合内科専門医 1 名
外来・入院患者数	【2025 年度実績】 外来延患者数：84,341 名（2025 年 6 月開設）
経験できる疾患群	非常に稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳に記された必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診連携・訪問診療・往診を経験できます.
学会認定施設 （内科系）	総合診療専門研修施設（関連施設）

研修プログラム表

資料２

①Subspecialty 重点コース

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	Subspecialty 重点研修（大内科研修を含む）											
			1回/月のプライマリケア当番研修									
	JMECC を受講											
2年目	連携施設研修（12 か月あるいは 6 か月×2）											
	7 月と 11 月の第 4 土曜日に研修報告会											
										内科専門医取得のための病歴提出準備		
3年目	Subspecialty 重点研修（大内科研修を含む）											
						初診＋再診外来週の 1 回担当						
その他	安全管理セミナーおよび感染セミナーの年 2 回の受講、CPC の受講											

※連携施設での研修は 2 年目としていますが、研修委員会との相談により、1 年目あるいは 3 年目への変更も変更可能とします。

②内科基本コース

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	所属科にて初期トレーニング				他内科 1		他内科 2		他内科 3		他内科 4	
			1回/月のプライマリケア当番研修									
	JMECCを受講											
2年目	他内科 5		他内科 6		他内科 7		他内科 8		他内科 9		予備	
	7月と11月の第4土曜日に研修報告会											
										内科専門医取得のための病歴提出準備		
3年目	連携施設研修（12 か月あるいは 6 か月×2）											
その他	安全管理セミナーおよび感染セミナーの年 2回の受講、CPC の受講											

※連携施設での研修は 3 年目としていますが、研修委員会との相談により、1 年目あるいは 2 年目への変更、また当院での研修の順序も変更可能とします。

資料３

内科専攻研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」について

修了要件：120症例の場合 ※専攻医7期生（2024年度専門研修開始）以降の方

内科専門研修 修了要件（「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」）一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ（高齢者）		1	
	総合内科Ⅲ（腫瘍）		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
外科紹介症例		2以上		2
剖検症例		1以上		1
合計		120以上（外来は最大12）	56 疾患群（任意選択含む）	29（外来は最大7）

補足

1. 目標設定と修了要件
   以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標（研修終了時）	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群：修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経験を加えて、合計56疾患群以上の経験とする。
3. 病歴要約：病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。
4. 各領域について
   ① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から1例ずつ計2例提出する。
   ② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
   ③ 内分泌と代謝：それぞれ1症例ずつ以上の病歴要約を提出する。
   例）「内分泌」2例＋「代謝」1例、「内分泌」1例＋「代謝」2例
5. 臨床研修時の症例について：例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大60症例を上限とし、病歴要約への適用については最大14症例を上限とする。

資料４

川崎医科大学附属病院内科専門研修プログラム管理委員会

川崎医科大学附属病院（基幹病院）

三原　雅史　（プログラム統括責任者、委員長、神経分野責任者）
上村　史朗　（プログラム管理者、副委員長、循環器分野責任者）
長洲　　一　（腎臓分野責任者）
近藤　英生　（血液分野責任者）
塩谷　昭子　（消化器分野責任者）
中野　和久　（膠原病・アレルギー分野責任者）
八木田佳樹　（神経［脳卒中］・救急分野責任者）
金藤　秀明　（内分泌・代謝分野責任者）
小賀　　徹　（呼吸器・感染症分野責任者）
堀　　真弓　（事務局代表、良医育成支援センター事務担当）

連携施設担当委員（敬称略）

石田　直	（倉敷中央病院）	植木　亨	（福山市民病院）
荒川　雅彦	（住友病院）	相良　博典	（昭和医科大学病院）
山内　淳	（大阪労災病院）	伊藤　敬義	（昭和医科大学江東豊洲病院）
北村　卓也	（津山中央病院）	緒方　浩顕	（昭和医科大学横浜市北部病院）
野口　暉夫	（国立循環器病研究センター）	鈴木　洋	（昭和医科大学藤が丘病院）
松尾　龍一	（水島中央病院）	勝谷　誠	（赤穂市民病院）
佐久川　亮	（岡山赤十字病院）	山本　一仁	（愛知県がんセンター）
水島　孝明	（金田病院）	佐藤　稔	（神戸労災病院）
豊川　達也	（福山医療センター）	竹中　創	（イムス葛飾ハートセンター）
松村　正	（姫路聖マリア病院）	山下　智省	（下関医療センター）
原口　俊	（南岡山医療センター）	大塚　文男	（岡山大学病院）
尾立　磨琴	（香川県済生会病院）	植松　周二	（広島市民病院）
牧田　雅典	（中国中央病院）	古川　裕	（神戸市立医療センター中央市民病院）
静川　裕彦	（札幌厚生病院）	南野　哲男	（香川大学医学部附属病院）
吉田　俊伸	（心臓病センター榊原病院）	和泉　才伸	（姫路医療センター）
白羽　英則	（川崎医科大学総合医療センター）	笹井　蘭	（京都大学医学部附属病院）
西村　尚志	（京都桂病院）	新海　正晴	（東京品川病院）
浅原　新吾	（新東京病院）	岩尾　年康	（会津中央病院）
吉井　健司	（水島協同病院）	川口　巧	（久留米大学病院）
二宮　朋之	（愛媛県立中央病院）	洲脇　俊充	（岡山市立市民病院）
今村　栄次	（柳井医療センター）	大橋　英智	（みずしま協同クリニック）

オブザーバー

内科専攻医１年生代表　１名
内科専攻医２年生代表　１名
内科専攻医３年生代表　１名

川崎医科大学附属病院内科専攻医研修マニュアル　資料５

1．研修後の医師像と終了後に想定される勤務形態や勤務先

1） 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。地域の医院に勤務（開業）し、実地医家として地域医療に貢献します。

2） 内科系救急医療の専門医：病院の救急医療を担当する診療科に所属し、内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。

3） 病院での総合内科（Generality）の専門医：病院の総合内科に所属し、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合的医療を実践します。

4） 総合内科的視点を持った subspecialist：病院で内科系の Subspecialty、例えば血液内科や循環器内科に所属し、総合内科（Generalist）の視点から、内科系 subspecialist として診療を実践します。

2．専門研修の期間

内科専門医は 2 年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修（後期研修）3 年間の研修で育成されます。

3．研修施設群の各施設名

基幹病院：川崎医科大学附属病院

連携施設：川崎医科大学総合医療センター、倉敷中央病院、総合病院岡山赤十字病院、津山中央病院、国立病院機構南岡山医療センター、金田病院、心臓病センター榊原病院、水島中央病院、中国中央病院、福山市民病院、国立病院機構福山医療センター、香川県済生会病院、姫路聖マリア病院、赤穂市民病院、神戸労災病院、住友病院、大阪労災病院、国立循環器病研究センター病院、愛知県がんセンター、昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院、イムス葛飾ハートセンター、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、ＪＡ北海道厚生連札幌厚生病院、地域医療機能推進機構下関医療センター、国立病院機構姫路医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、広島市民病院、香川大学医学部附属病院、岡山大学病院、京都大学医学部附属病院、京都桂病院、東京品川病院、新東京病院、会津中央病院、水島協同病院、久留米大学病院、愛媛県立中央病院、岡山市立市民病院、国立病院機構柳井医療センター、みずしま協同クリニック

4．プログラムに関わる委員会と委員、および指導医名

1） 研修プログラム管理運営体制

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を川崎医科大学附属病院に設置し、その委員長・副委員長を含め各診療科から 1 名ずつ管理委員を選任します。

プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院に専攻医の研修を管理する研修実務委員会を置き、委員長が統括します。

2） 指導医一覧

別途用意します。

5. 各施設での研修内容と期間

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下のコース、①Subspecialty 重点コース、②内科基本コース、の 2 つを準備しています。Subspecialty が未決定、または総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。専攻医は各内科系教室ではなく、良医育成支援センターに所属し、2 年間で各科を基本 2 か月毎にローテートします。将来の Subspecialty が決定している専攻医は Subspecialty 重点コースを選択します。当該診療科に所属のうえ研修し、内科系合同研修（大内科と呼んでいます）を並行して行うことも可能です。基幹施設である川崎医科大学附属病院での研修が中心になりますが、関連施設での研修は必須であり、原則 1 年間はいずれかの関連施設で研修します。連携施設では基幹病院では経験しにくい領域や地域医療の実際について学ぶことができます。

6. 主要な疾患の年間診療件数

内科専門医研修のための主要な疾患については、川崎医科大学附属病院（基幹病院）の DPC 病名を基本とした各内科診療科における疾患群別の入院患者数を調査し、全ての疾患群が充足されることが解っています（一部の疾患群は外来での経験を含めるものとします）。ただし、研修期間内に全疾患群の経験ができるように誘導する仕組みも必要であり、初期研修時での症例をもれなく登録すること、外来での疾患頻度が高い疾患群を診療できるシステム（外来症例割当システム）を構築することで必要な症例経験を積むことができます。

7. 年次ごとの症例経験到達目標を達成するための具体的な研修の目安

1） Subspecialty 重点コース

希望する Subspecialty 領域を重点的に研修するコースです。1 年目から所属科に入局のうえ、当該診療科において担当する患者さんが決定されます。また、内科系合同研修（大内科と呼んでいます）を並行して行うことも可能で、担当医を決定するにあたっては、電子カルテ上に各専攻医がこれまでに経験した症例内容が一覧できるシステムを構築しているので、指導医と専攻医が双方向性に議論することによって公平性が保たれるように配慮しています。ただし、専攻医は将来希望する内科において理想的医師像とする指導医や上級医師から、内科医としての基本姿勢のみならず、目指す領域での知識、技術を学習することにより、内科専門医取得への Motivation を強化することを目的とし、希望する Subspecialty 領域の症例を中心に担当します。2 年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。連携施設として川崎医科大学総合医療センター、倉敷中央病院、総合病院岡山赤十字病院、津山中央病院、国立病院機構南岡山医療センター、金田病院、心臓病センター榊原病院、水島中央病院、中国中央病院、福山市民病院、国立病院機構福山医療センター、香川県済生会病院、姫路聖マリア病院、赤穂市民病院、神戸労災病院、住友病院、大阪労災病院、国立循環器病研究センター病院、愛知県がんセンター、昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院、イムス葛飾ハートセンター、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、ＪＡ北海道厚生連札幌厚生病院、地域医療機能推進機構下関医療センター、国立病院機構姫路医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、広島市民病院、香川大学医学部附属病院、岡山大学病院、京都大学医学部附属病院、京都桂病院、東京品川病院、新東京病院、

会津中央病院、水島協同病院、久留米大学病院、愛媛県立中央病院、岡山市立市民病院、国立病院機構柳井医療センター、みずしま協同クリニックで病院群を形成し、いずれかを原則として 1 年間ローテーションします（複数施設での研修の場合はそれぞれを少なくとも 6 か月間の研修を行い、期間の合計は 1 年間です）。3 年目には、Subspecialty 領域を基幹病院で重点的に研修するとともに、充足していない症例を経験します。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望する Subspecialty 領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。なお、研修中の専攻医数や進捗状況により、初年度から連携施設での重点研修を行うことがありますが、あくまでも内科専門医研修が主体であり、重点研修は最長 2 年間とします。また、専門医資格の取得と臨床系大学院への進学を希望する場合は、本コースを選択の上、担当教授と協議して大学院入学時期を決めて頂きます。

2） 内科基本コース

内科（Generality）専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度な Generalist を目指す方も含まれます。将来の Subspecialty が未定な場合に選択することもあり得ます。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の 3 年間において 1 年目と 2 年目は、内科領域を担当する全ての科をローテーションします。原則として 2 か月を 1 単位として、1 年間に 9 診療科（①血液内科、②循環器内科、③腎臓内科、④神経内科、⑤消化器内科、⑥呼吸器内科、⑦糖尿病・代謝・内分泌内科、⑧リウマチ・膠原病科、⑨脳卒中科）を基幹施設でローテーションします。3 年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。連携施設として川崎医科大学総合医療センター、倉敷中央病院、総合病院岡山赤十字病院、津山中央病院、国立病院機構南岡山医療センター、金田病院、心臓病センター榊原病院、水島中央病院、中国中央病院、福山市民病院、国立病院機構福山医療センター、香川県済生会病院、姫路聖マリア病院、赤穂市民病院、神戸労災病院、住友病院、大阪労災病院、国立循環器病研究センター病院、愛知県がんセンター、昭和医科大学病院、昭和医科大学江東豊洲病院、イムス葛飾ハートセンター、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、ＪＡ北海道厚生連札幌厚生病院、地域医療機能推進機構下関医療センター、国立病院機構姫路医療センター、神戸市立医療センター中央市民病院、広島市民病院、香川大学医学部附属病院、岡山大学病院、京都大学医学部附属病院、京都桂病院、東京品川病院、新東京病院、会津中央病院、水島協同病院、久留米大学病院、愛媛県立中央病院、岡山市立市民病院、国立病院機構柳井医療センター、みずしま協同クリニックで病院群を形成し、いずれかを原則として 1 年間ローテーションします（複数施設での研修の場合はそれぞれを少なくとも 6 か月間の研修を行い、期間の合計は 1 年間です）。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。連携施設での研修は 3 年目としていますが、研修実務委員会との相談により、1 年目あるいは 2 年目への変更、また当院での研修の順序も変更可能とします。

8. 自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行う時期とフィードバックの時期

1） 専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussion を行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。

2） 指導医による評価と 360 度評価

指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医が Web 版の研修手帳に登録した当該科の症例登録を経時的に確認しながら、J-OSLER の登録についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に 1 回以上、目標の達成度や各指導医・メディカルスタッフの評価に基づき、研修責任者は専攻医の研修の進行状況の把握と評価を行い、適切な助言を行います。

9. プログラム修了の基準

専攻医研修 3 年目の 3 月に専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29 症例の病歴要約の承認、所定の講習受講や研究発表なども修了判定の要件になります。

最終的には J-OSLER による修了要件を満たしていること、そして指導医による総合的評価に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。その後、プログラム統括責任者が J-OSLER 上において修了認定とします。

10. 専門医申請に向けての手順

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用います。同システムでは以下を web ベースで日時を含めて記録します。具体的な入力手順については内科学会 HP から「J-OSLER 操作マニュアル」をダウンロードし、参照してください。

- 専攻医は全 70 疾患群の経験と 200 症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低 56 疾患群以上 120 症例の研修内容を登録します。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行います。
- 指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフによる 360 度評価、専攻医による逆評価を入力して記録します。
- 全 29 症例の病歴要約を指導医が校閲し、指摘事項に基づいた改訂をアクセプトされるまでシステム上で行います。
- 専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステム上に登録します。
- 専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、内科系学術集会、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録します。

11. プログラムにおける待遇

専攻医の勤務時間、休暇、時間外診療業務、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、川崎医科大学附属病院のレジデント修練服務規程およびレジデント制度取扱規程に従います。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けます。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

12. プログラムの特色

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2 つのコース、①Subspecialty 重点コース、②内科基本コース、を準備していることが最大の特徴です。コース

選択後も条件を満たせば他のコースへの移行も認められます。また、外来トレーニングとしてふさわしい症例（主に初診）を経験するために、専攻医は外来担当医の指導の下、当該症例の外来主治医となり、一定期間外来診療を担当し、研修を進めることができます。

13. 継続した Subspecialty 領域の研修の可否

内科学における 13 の Subspecialty 領域を順次研修します。基本領域の到達基準を満たすことができる場合には、専攻医の希望や研修の環境に応じて、各 Subspecialty 領域に重点を置いた専門研修を行うことがありえます（Subspecialty 重点コース参照）。本プログラム終了後はそれぞれの医師が研修を通じて定めた進路に進むために適切なアドバイスやサポートを行います。

14. 逆評価の方法とプログラム改良姿勢

毎年 3 月に現行プログラムに関するアンケート調査を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

15. 研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難な場合は、日本専門医機構内科領域研修委員会に相談します。

資料６

川崎医科大学内科専門研修プログラム
指導医マニュアル

1）専攻医研修ガイドの記載内容に対応したプログラムにおいて期待される指導医の役割

- 1 人の担当指導医（メンター）に専攻医 1 人が川崎医科大学附属病院内科専門研修プログラム委員会により決定されます。
- 担当指導医は、専攻医が web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録するので、その履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をします。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行います。
- 担当指導医は、専攻医がそれぞれの年次で登録した疾患群、症例の内容について、都度、評価・承認します。
- 担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、研修手帳 Web 版での専攻医による症例登録の評価や良医育成支援センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握します。専攻医は Subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談します。担当指導医と Subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整します。
- 担当指導医は Subspecialty 上級医と協議し、知識、技能、態度の評価を行います。
- 担当指導医は専攻医が専門研修（専攻医）2 年修了時までに合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、J-OSLER 上による査読・評価で承認されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行います。

2）専門研修プログラムにおける年次到達目標と評価方法、ならびにフィードバックの方法と時期

- 年次到達目標は、内科専門研修において求められる「疾患群」、「症例数」、「病歴提出数」に示すとおりです。
- 担当指導医は、良医育成支援センターと協働して、3 か月ごとに研修手帳 Web 版にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による研修手帳 Web 版への記入を促します。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、良医育成支援センターと協働して、6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促します。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促します。
- 担当指導医は、良医育成支援センターと協働して、6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡します。
- 担当指導医は、良医育成支援センターと協働して、毎年 8 月と 12 月に自己評価と指導医評価、ならびに 360 度評価を行います。評価終了後、1 か月以内に担当指導医は専攻医にフィードバックを行い、形成的に指導します。2 回目以降は、以前の評価についての省察と改善とが図られたか否かを含めて、担当指導医はフィードバックを形成的に行って、改善を促します。

3）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）の利用方法

- 専攻医による症例登録を行ない、担当指導医が適切と認めた場合に承認します。

- 担当指導医による専攻医の評価、メディカルスタッフらによる 360 度評価および専攻医による逆評価などを専攻医に対する形成的フィードバックに用います。
- 専攻医が作成し、担当指導医が校閲し適切と認めた病歴要約全 29 症例を専攻医が登録したものを担当指導医が承認します。一次評価が終了後、二次評価（外部査読委員評価）へと進みます。
- 専攻医が登録した学会発表や論文発表の記録、出席を求められる講習会等の記録について、各専攻医の進捗状況をリアルタイムで把握します。担当指導医と良医育成支援センターはその進捗状況を把握して年次ごとの到達目標に達しているか否かを判断します。
- プログラム統括責任者は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、研修内容を評価し、修了要件を満たしているかを判断します。

4）逆評価と日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医の指導状況把握

専攻医による日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いた指導医評価を行います。

5）指導に難渋する専攻医の扱い

必要に応じて、臨時（毎年 8 月と 12 月の予定の他に）で、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医自身の自己評価、担当指導医による内科専攻医評価およびメディカルスタッフらによる 360 度評価（内科専門研修評価）を行い、その結果を基に内科専門医研修プログラム管理委員会で協議を行い、専攻医に対して形成的に適切な対応を試みます。状況によっては、担当指導医の変更や在籍する内科専門研修プログラムの異動勧告などを行います。

6）プログラムならびに各施設における指導医の待遇

川崎医科大学附属病院の給与規定によります。

7）FD 講習の出席義務

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨し、指導者研修（FD）の実施記録を把握します。

資料７

二次医療圏で見た川崎医科大学附属病院内科専門研修プログラムの連携施設群



基幹施設：川崎医科大学附属病院（岡山県南西部）

連携施設群（全 42 病院）：

岡山県（12）

岡山県南西部：①倉敷中央病院、②国立病院機構南岡山医療センター、③水島中央病院、
④水島協同病院　⑤みずしま協同クリニック

岡山県南東部：⑥川崎医科大学総合医療センター、⑦総合病院岡山赤十字病院、
⑧心臓病センター榊原病院、⑨岡山大学病院、⑩岡山市立市民病院

津山・英田　：⑪津山中央病院

真庭　　：⑫金田病院※

広島県（4）

福山・府中　：⑬福山市民病院、⑭国立病院機構福山医療センター

広島　　⑮中国中央病院、⑯広島市民病院

山口県（2）

下関　　：⑰地域医療機能推進機構下関医療センター

柳井　　：⑱国立病院機構柳井医療センター

香川県（2）

高松　　：⑲香川県済生会病院

木田　　：⑳香川大学医学部附属病院

愛媛県（1）

松山　　：㉑愛媛県立中央病院

兵庫県（5）

西播磨　　：㉒赤穂市民病院

中播磨　　：㉓姫路聖マリア病院

神戸市　　：㉔神戸労災病院、㉕神戸市民医療センター中央市民病院

姫路市　　：㉖国立病院機構姫路医療センター

大阪府（3）

豊能　　：㉗国立循環器病研究センター病院

堺市　　：㉘大阪労災病院

大阪市　　：㉙住友病院

京都府（2）

京都市　　：㉚京都大学医学部附属病院

京都市　　：㉛京都桂病院





愛知県（1）

名古屋市　　：㉜愛知県がんセンター

福島県（1）

会津若松市　：㉝会津中央病院

千葉県（1）

松戸市　　：㉞新東京病院

東京都（4）

葛飾区　　：㉟イムス葛飾ハートセンター

品川区　　：㊱昭和医科大学病院

品川区　　：㊲東京品川病院

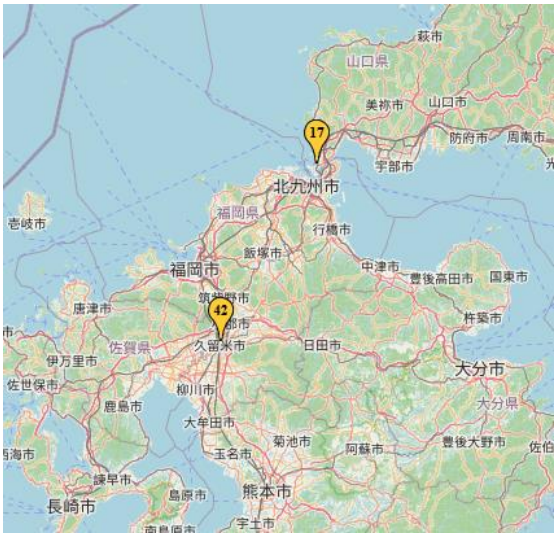
江東区　　：㊳昭和医科大学江東豊洲病院

神奈川県（2）

横浜市　　：㊴昭和医科大学横浜市北部病院

横浜市　　：㊵昭和医科大学藤が丘病院





北海道（1）

札幌市　　：㊶ＪＡ北海道厚生連札幌厚生病院

福岡県（1）

久留米市　　：㊷久留米大学病院